

森林環境教育の教材一覧 (DVD の内容)

I 提示用デジタルデータ

- 1-1 令和2年度 森林及び林業の動向 (森林・林業白書)
- 1-2 平成28年度 森林及び林業の動向 (森林・林業白書)
- 1-3 平成25年度 森林及び林業の動向 (森林・林業白書)
- 2 知ってほしい森と木のこと 2014
- 3 2021年11月版 森林・林業・木材産業の現状と課題
- 4 紙芝居・絵本

II 写真集 (一覧表を含む)

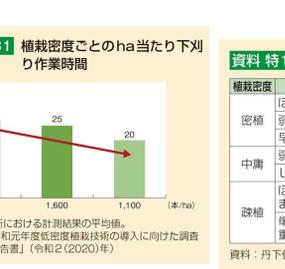
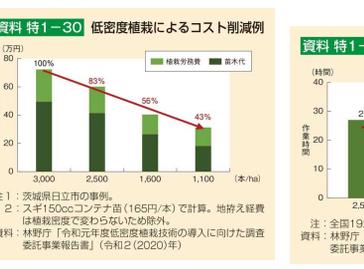
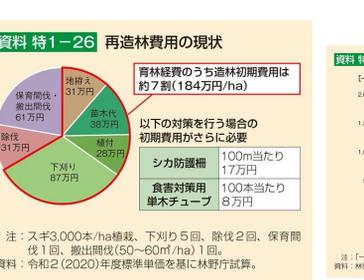
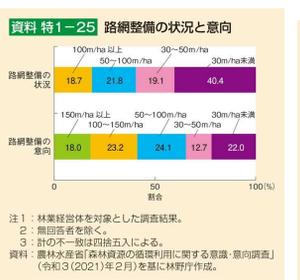
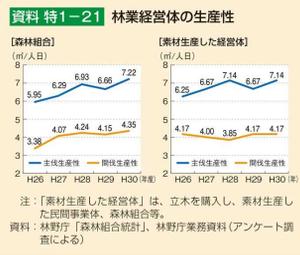
- 1 日本の森林と自然
- 2 人と森林の関わり
- 3 森林の保全
- 4 木工クラフト

III 動画

- 1 下多古村有林 (奈良県川上村)
- 2 水源地の村づくり (奈良県川上村)
- 3 わりばしの歌 (尾上忠大 氏)

IV 学習指導要領

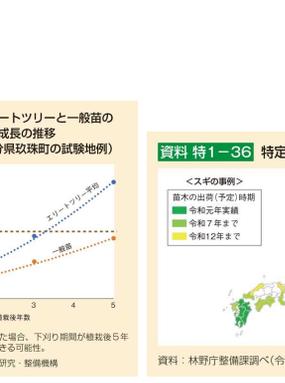
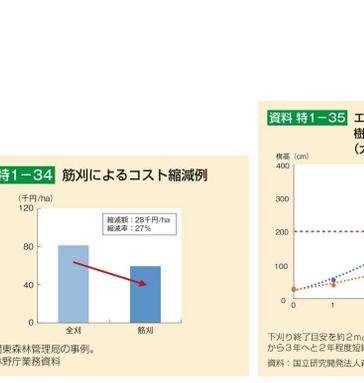
- 1 小学校学習指導要領 (平成29年3月告示)
- 2 小学校学習指導要領 (平成29年3月告示抜粋) 森林・林業に関する主な記述



資料 特1-32 主な林業地における保育形式

植栽密度	間伐	伐期の長短	林業地	主な丸太の用途
密植	ほぼ無間伐	短	旧四ツ谷	足場丸太、楢竿等
	早期にしばしば	長	吉野	優良大径材、樽丸
中庸	弱度	長	智頭	優良大径材、樽丸
	しばしば適度に	長	旧国有林	大径一般材
疎植	ほぼ無間伐または弱度	短	天竜、日田、小国、木頭、ボカスギ	一般用材、電柱
	単木の高成長に重点	長	既肥	弁甲材(造船用材)

資料：丹下健、小池孝良(2016)造林学 第4版、明倉出版。149。

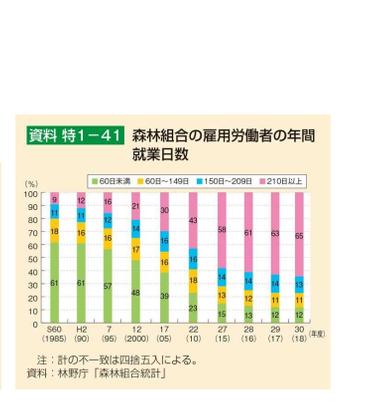
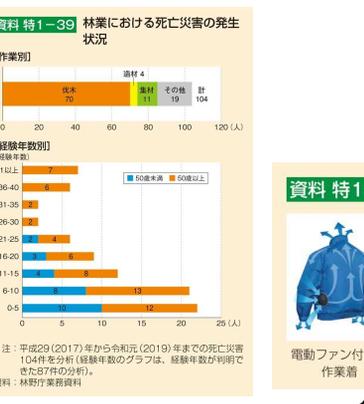


3. 林業従事者の確保・育成と労働環境の向上

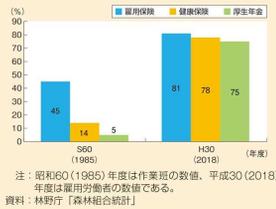
資料 特1-38 全国の林業大学校一覧

道府県	名称	道府県	名称
北海道	北海道立立木の森づくり専門学校	兵庫県	兵庫県立森林林業大学校
岩手県	いわて林業アカデミー	和歌山県	和歌山県立森林林業大学校
秋田県	秋田林業大学校	鳥取県	鳥取県立森林林業大学校
山形県	山形県立森林林業大学校	鳥取県	鳥取県立森林林業大学校
群馬県	群馬県立森林林業大学校	徳島県	とくしま林業アカデミー
福井県	ふくい林業アカデミー	高知県	高知県立森林林業大学校
長野県	長野県立森林林業大学校	熊本県	くまもと林業アカデミー
岐阜県	岐阜県立森林林業大学校	大分県	おおいた林業アカデミー
静岡県	静岡県立森林林業大学校	宮崎県	みやざき林業大学校
京都府	京都府立森林林業大学校		

注：1. 学校教育法に基づく専門学校や各種学校、自治体の研修機関で、修学・研修期間は1-2年程であるものを、道庁等が「林業大学校」等として設置している。
 2. 群馬県立森林林業大学校は、群馬大学との連携に伴い令和2(2020)年度から前期学生募集を停止。
 資料：林野庁研究指導課調べ。



資料 特1-42 森林組合の雇用労働者の社会保険等への加入割合



資料 特1-43 森林組合の雇用労働者の資金支払形態割合の推移



4. 持続的な林業経営を担う人材育成及び体制整備

資料 特1-44 認定森林施業プランナー数の推移



資料 特1-45 林家の保有山林面積

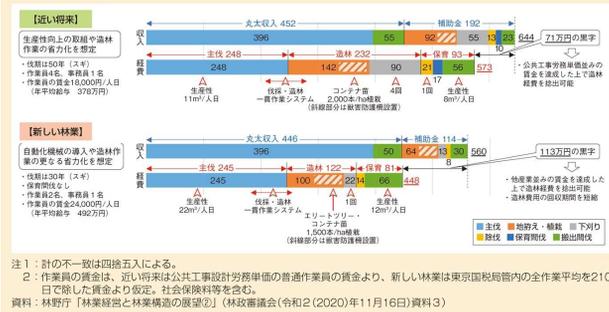


資料 特1-46 再造林を促進する基金の仕組み



5. 今後の林業経営の可能性

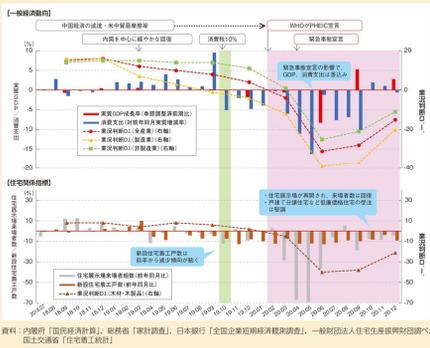
資料 特1-47 これからの林業の収支構造試算(施業地レベル1ha)



特集2 新型コロナウイルス感染症による林業・木材産業への影響と対応

1. 新型コロナウイルス感染症の影響

資料 特2-1 一般経済と住宅関係指標の動向

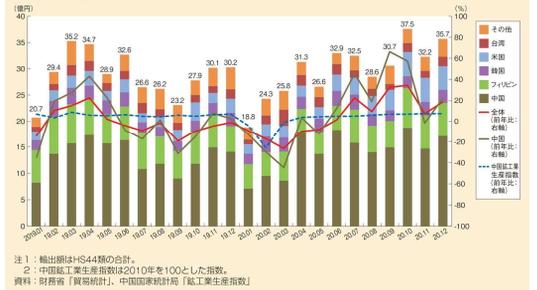


資料 特2-2 我が国の木材輸入額と品目別輸入量

	2019年	2020年	前年比
木材輸入額(億円)	11,664	9,430	▲19%
丸太(千m)	3,019	2,301	▲24%
製材(千m)	5,700	4,933	▲13%
合板(千m)	1,916	1,660	▲13%
チップ(千トン)	12,171	9,491	▲22%
集成材(千m)	973	1,022	+5%

資料：財務省「貿易統計」

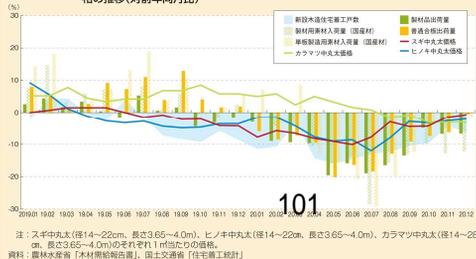
資料 特2-3 我が国における木材輸出額の動向(2019~2020年)

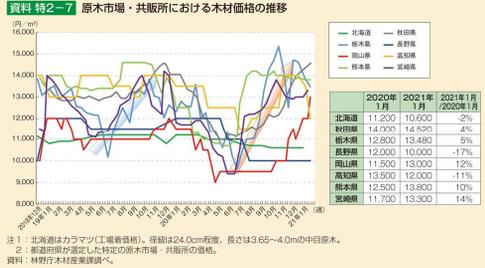


資料 特2-4 米国向け製材品輸出量の動向



資料 特2-5 新設木造住宅着工戸数、製材・合板工場における素材入荷量・製品出荷量、素材価格の推移(対前年同月比)





2. 林業・木材産業における対応

資料 特2-8 林業・木材産業関係の主な対策

経営の継続	<ul style="list-style-type: none"> 経営継続補助金 持続化給付金 雇用調整助成金
資金繰り支援	<ul style="list-style-type: none"> 農林漁業セーフティネット資金の実質無担保・無保証人による融資 債務保証に係る保証料の免除 等
需給調整等	<ul style="list-style-type: none"> 原木生産を伴わない森林整備 国有林の立木販売の一時延期や搬出期間の無償延長 輸出原木保管等緊急支援 滞留する原木を一時保管する際の掛かり過ぎ費用を支援 等
減少した需要の喚起	<ul style="list-style-type: none"> 過剰木材在庫利用緊急対策 行き場のなくなった輸出向け原木を有効活用するため、公共施設等における木材利用を支援 大径原木加工施設整備緊急対策 大径材を有効活用し、付加価値の高い木材製品に転換するための加工設備の整備を支援

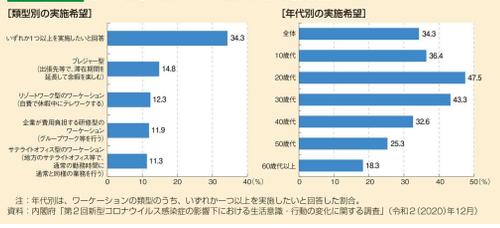
資料 特2-9 支援措置による内装木質化事例



資料 特2-10 「新しい生活様式」に対応した木製品の例



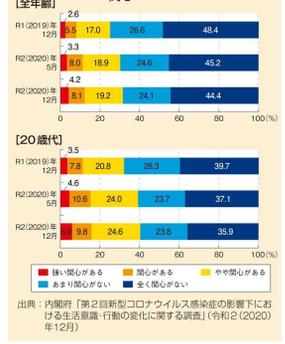
資料 特2-11 就業者に対するワーケーションに関する意識調査



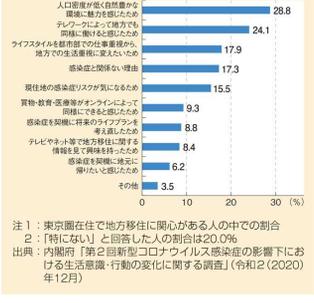
資料 特2-12 山村地域におけるワーケーションのイメージ



資料 特2-13 東京圏在住者の地方移住への関心



資料 特2-14 地方移住への関心理由



第I章 森林整備・保全 1. 森林の適正な整備・保全の推進

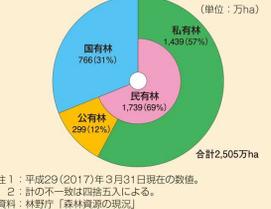
資料 1-1 人工林の齢級構成の変化



資料 1-2 我が国の森林蓄積の推移



資料 1-3 森林面積の内訳



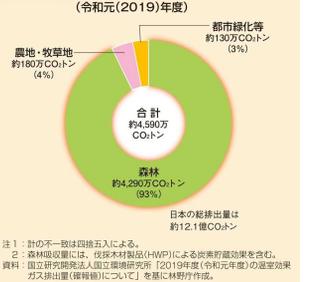
資料 1-4 森林の有する多面的機能



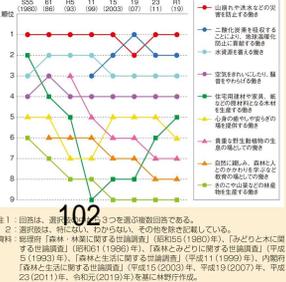
資料 1-5 家庭からの二酸化炭素排出量とスキの二酸化炭素吸収量



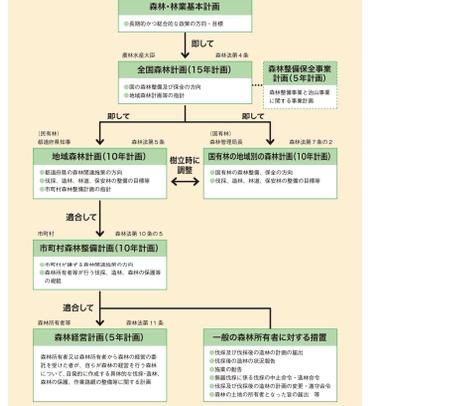
資料 1-6 我が国の二酸化炭素吸収量(令和元(2019)年度)



資料 1-7 森林に期待する役割の変遷



資料 1-8 森林計画制度の体系

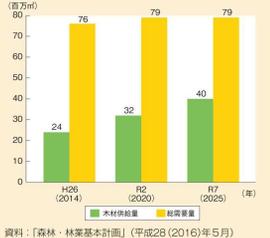


資料 I-9 「森林・林業基本計画」における森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

	平成27 (2015)	2020	2025	2030	(参考) 指向する 森林の状態
森林面積 (万ha)	1,030	1,020	1,020	990	660
育成単熟林	100	120	140	200	690
育成複熟林	1,380	1,360	1,350	1,320	1,170
天然生林	2,510	2,510	2,510	2,510	2,510
合計	5,070	5,270	5,400	5,550	5,590
総面積 (百万㎡)	6,070	5,270	5,400	5,550	5,590
ha当たり蓄積 (㎡/ha)	202	210	215	221	223
総成長量 (百万㎡/年)	70	64	58	55	54
ha当たり成長量 (㎡/ha年)	2.8	2.5	2.3	2.2	2.1

注1：森林面積は、10万ha単位で四捨五入している。
 注2：目標とする森林の状態及び指向する森林の状態は、平成27(2015)年を基準として算出している。
 注3：平成27(2015)年の積算、平成27(2015)年4月1日の数値である。
 資料：「森林・林業基本計画」(平成28(2016)年5月)

資料 I-10 「森林・林業基本計画」における木材供給量の目標と総需要量の見直し



資料：「森林・林業基本計画」(平成28(2016)年5月)

資料 I-11 「全国森林計画」における計画量

区分	計画量	
伐採立木材積 (百万㎡)	主伐	377
	間伐	444
	計	822
造林面積 (千ha)	人工造林	1,028
	天然更新	958
林道開設量 (千km)	62	
保安林面積 (千ha)	13,010	
治山事業施行地区数 (百地区)	323	
間伐面積(参考) (千ha)	6,784	

注1：計画量のうち、「保安林面積」は計画期末(令和15(2033)年度末)の面積。それ以外は、計画期間(平成31(2019)年4月1日~令和16(2034)年3月31日)の総量。
 注2：治山事業施行地区数は、治山事業を実施する箇所について、尾根や沢などの地形等により区分される森林の区域単位として取りまとめた上、計上したものである。
 資料：「全国森林計画」(平成30(2018)年10月)

2. 森林整備の動向

資料 I-12 再造林を促進する地域と事業計画のイメージ

【地域の指定】

■ 再造林を促進する地域
林木の成長に促れ、林道などの整備が可能な森林、都道府県が一体的に指定。

■ 再造林を促進する地域
林道等

● 事業計画に基づく植栽箇所

【林業事業者等への支援】

■ 再造林に関する事業計画
森林所有者、林業事業者が特定母樹から育成された苗木の植栽に関する事業計画を作成し、都道府県知事が認定。林業事業者に対する事業特別貸付により、再造林も再造林の実施を支援。

林業機械等を活用した効率的な造林の推進

特定母樹から育成された苗木を活用した計画的かつ効率的な高品質な再造林
森林吸収量の更なる増進

資料 I-15 特定母樹由来の苗木の成長

○ 植栽後3年経過時の成長比較

154cm, 240cm, 343cm

これまで植栽されてきた苗木 特定母樹由来の苗木

資料：国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 林木育種センター

資料 I-16 特定母樹の指定状況

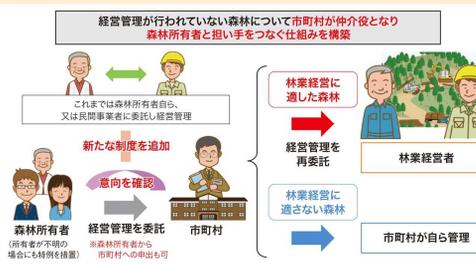
育種基本区	スギ	ヒノキ	カラマツ	トドマツ	計
北海道			1		21
東北	85		14		99
関東	69	44	62		175
関西	38	40			78
九州	39	1			40
計	231	85	77	20	413

資料：林野庁研究指導課調べ。

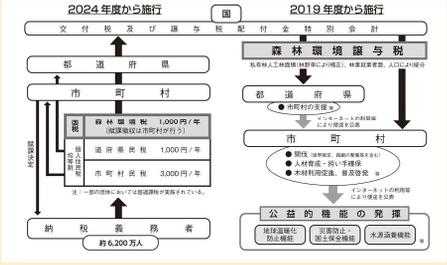
資料 I-17 スギの花粉症対策苗木の生産量の推移



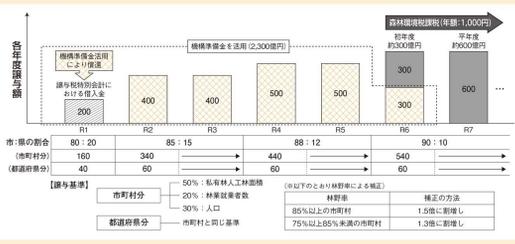
資料 I-18 森林経営管理制度の概要



資料 I-19 森林環境税制度設計イメージ



資料 I-20 森林環境税と税の額と市町村及び都道府県に対する額と割合



資料 I-22 企業による森林づくり活動の実施箇所数の推移



資料 I-23 森林環境教育の企画展示

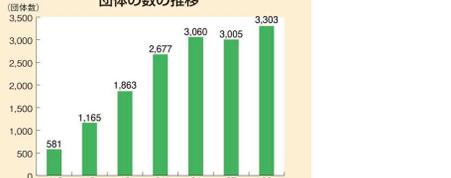


資料 I-24 地方公共団体による森林整備等を主な目的とした住民税の超過課税の取組状況

【導入済み(37府県)】	【主な使途(令和2(2020)年度)】
北海道・東北地方	森林整備・保全
関東地方	普及啓発
中部地方	木材利用促進
近畿地方	森林環境学習
中国地方	人材育成
四国地方	
九州地方	

府県数: 37, 35, 20, 24, 7

資料 I-21 森林づくり活動を実施している団体の数の推移



3. 森林保全の動向

資料 I-25 保安林の種類別面積

森林法第25条第1項	保安林種別	面積 (ha)	
		指定面積	実面積
1号	水源かん養保安林	9,235,167	9,235,167
2号	土砂流出防備保安林	2,606,095	2,535,749
3号	土砂崩壊防備保安林	60,089	59,669
4号	飛砂防備保安林	16,156	16,135
5号	防風保安林	56,122	55,977
	水害防備保安林	631	611
	滞害防備保安林	13,878	12,220
	干害防備保安林	126,191	99,935
	防雪保安林	31	31
	防露保安林	61,614	61,386
6号	なだれ防止保安林	19,169	16,574
	落石防止保安林	2,525	2,486
7号	防火保安林	396	303
8号	鳥つき保安林	60,039	26,925
9号	航行目標保安林	1,106	319
10号	保健保安林	704,096	92,559
11号	風致保安林	28,043	14,273
合計		12,991,351	12,230,316
森林面積に対する比率(%)		-	48.6
国土面積に対する比率(%)		-	32.4

注1：令和2(2020年)3月31日現在の数値。
注2：実面積とは、それぞれの種別における指定面積から、上位の種別による重複指定された面積を除いた面積を表す。
資料：林野庁治山課調べ。

資料 I-26 近年の山地災害等に伴う被害



注：山地災害(林地荒廃、治山施設)及び林地施設等の被害額及び被害面積を示す。
資料：林野庁治山課調べ。

資料 I-27 近年の災害の復旧状況



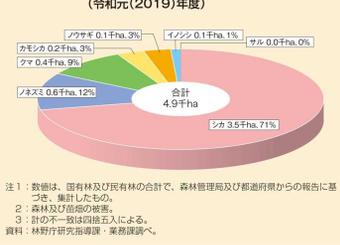
資料 I-28 「生物多様性国家戦略2012-2020」(平成24(2012)年9月閣議決定)の概要

- 【基本戦略】**
- 生物多様性を社会に浸透させる
 - 地域における人と自然の関係を再構築し、再構築する
 - 森・里・川・海のつながりを確保する
 - 地球規模の視野を持って行動する
 - 科学的基盤を強化し、政策に結びつける
- 【森林関連の主な具体的施策】**
- 森林・林業の再生に向けた適切で効率的な森林の整備及び保全、更新を確保するなどの多様な森林づくりを推進
 - 国有林野における「保護林」や「緑の回廊」を選び原生的な森林生態系や希少な生物が生息する森林を保全・管理
 - 防護柵等の設置、捕獲による個体数調整、防除技術の開発や生息・被害状況の調査などの総合的な鳥獣被害対策を推進
 - 多様な森林づくり等について考慮するなど、生物多様性に配慮して海洋防災林を再生
- 資料：「生物多様性国家戦略 2012-2020」(平成24(2012)年9月)

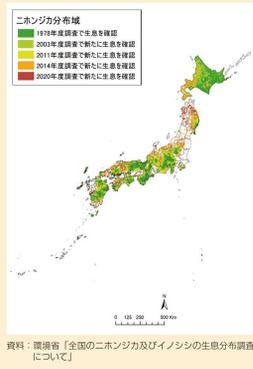
資料 I-29 我が国のユネスコエコパーク



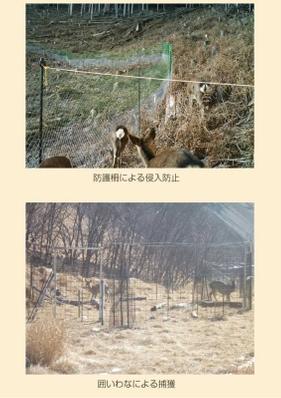
資料 I-30 主要な野生鳥獣による森林被害面積(令和元(2019)年度)



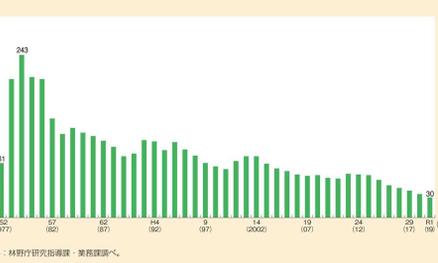
資料 I-31 ニホンジカ分布域



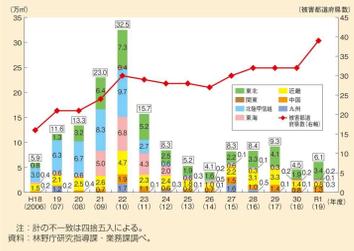
資料 I-32 野生鳥獣被害対策の例



資料 I-33 松くい虫被害量(材積)の推移



資料 I-34 ナラ枯れ被害量(材積)の推移



資料 I-35 林野火災の発生件数及び焼損面積の推移

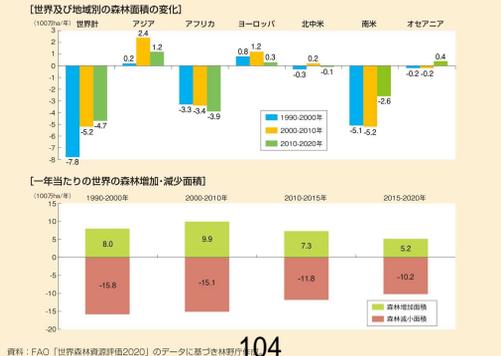


資料 I-36 森林保険における保険金支払額の推移

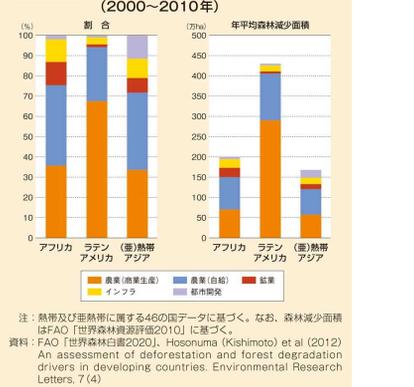


4. 国際的な取り組みの推進

資料 I-37 世界の森林面積の変化(1990-2020年)



資料 I-38 地域別の森林減少の要因(2000-2010年)



資料Ⅱ-9 林業作業の受託面積



注1: 「民間事業体」は、株式会社、合名・合資会社、合同会社及び相互会社。「その他」は、地方公共団体、財産区、個人経営体等。
 注2: 計の不一致は四捨五入による。
 資料: 農林水産省「2015年農林業センサス」

資料Ⅱ-10 過去5年間の家族経営体における保有山林での林業作業別の実施者の割合



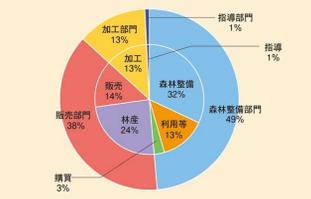
資料: 農林水産省「2015年農林業センサス」

資料Ⅱ-12 林業所得の内訳

項目	単位	平成30(2018)年
林業粗収益	万円	378
木材生産	#	214
立木販売	#	21
その他	#	143
造林補助金	#	65
林業経営費	#	274
請負むせ料金	#	107
雇用労賃	#	31
その他	#	137
林業所得	#	104
伐採材積	m ³	210

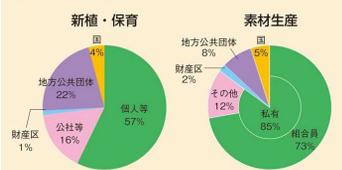
注1: 家族経営体の林業所得の内訳。
 注2: 伐採材積は保有山林分である。
 注3: 平成30(2018)年調査から、造林補助金については林業粗収益に含めた。
 注4: 計の不一致は四捨五入による。
 資料: 農林水産省「平成30年林業経営統計調査報告書」(令和2(2020)年6月)

資料Ⅱ-13 森林組合における事業取扱高の割合



注: 計の不一致は四捨五入による。
 資料: 林野庁「平成30年度森林組合統計」(令和2(2020)年3月)

資料Ⅱ-14 森林組合への作業依頼者別割合



注1: 「個人等」は、国、地方公共団体、財産区、公社等を除く個人や会社。「公社等」には、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センターを含む。「私有」は、国、地方公共団体、財産区を除く個人や会社。
 注2: 「新植・保育」については依頼者別の面積割合、「素材生産」については依頼者別の数量割合。
 資料: 林野庁「平成30年度森林組合統計」(令和2(2020)年3月)

資料Ⅱ-8 林業経営体の数と構成割合 (保有山林面積規模別) (2020年)



注1: ()内の数字は合計に占める割合である。
 注2: 計の不一致は四捨五入による。
 資料: 農林水産省「2020年農林業センサス」

資料Ⅱ-11 組織形態別の素材生産量 (平成22(2010)年と平成27(2015)年の比較)



注: 計の不一致は四捨五入による。
 資料: 農林水産省「農林業センサス」

資料Ⅱ-15 森林組合の事業量の推移



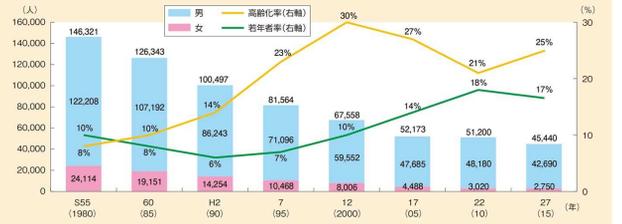
注1: 昭和60(1985)年度以前は素材生産量を主伐と間伐に分けて調査していない。
 注2: 計の不一致は四捨五入による。
 資料: 林野庁「森林組合統計」

資料Ⅱ-16 総事業取扱高別の森林組合数及び割合



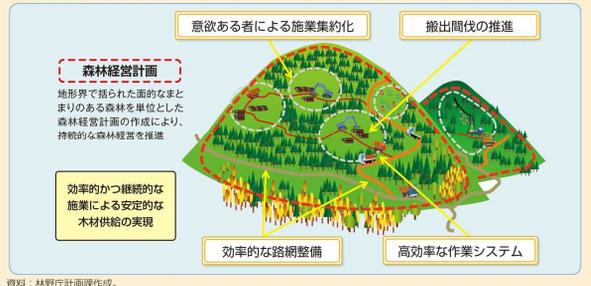
資料: 林野庁「平成30年度森林組合統計」(令和2(2020)年3月)

資料Ⅱ-17 林業従事者数の推移



注1: 高齢化率とは、65歳以上の従事者の割合。
 注2: 若年者率とは、35歳未満の従事者の割合。
 注3: 内訳の()内の数字は女性の人数。
 注4: 2005年以前の各項目の名称は、「～従事者」ではなく「～作業者」。
 注5: 「伐木・造材・集材従事者」については、1985年、1990年、1995年、2000年は「伐木・造材作業者」と「集材・運材作業者」の和。
 注6: 「その他の林業従事者」については、1985年、1990年、1995年、2000年は「製炭・製薪作業者」を含んだ数値。
 資料: 総務省「国勢調査」

資料Ⅱ-18 森林経営計画制度の概要



資料: 林野庁計画課作成。

資料Ⅱ-19 森林の境界の明確化が進まない理由(複数回答)



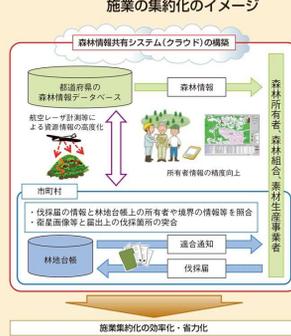
注: 「2015年農林業センサス」における林業経営体を対象とした調査結果。
 資料: 農林水産省「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」(令和2(2021)年2月)

資料Ⅱ-20 リモートセンシングデータを活用した地籍調査における説明会の様子



(写真提供: 国土交通省)

資料Ⅱ-21 森林クラウドを活用した森林施策の集約化のイメージ



資料: 林野庁計画課作成。

資料Ⅱ-22 路網整備における路網区分及び役割



2. 特用林産物の動向

資料Ⅱ-23 きのご類生産量の推移



注1: 乾しいたけは生重換算値。
 注2: 平成12(2000)年までの「その他」はひらたけ、まつたけ、きくらげ類の合計。平成17(2005)年以降の「その他」はひらたけ、まつたけ、きくらげ類等の合計。
 資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

資料Ⅱ-24 きのご生産者戸数の推移



資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

資料Ⅱ-25 しいたけの輸入量の推移



資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

資料Ⅱ-26 きのご類の年間世帯購入数量の推移



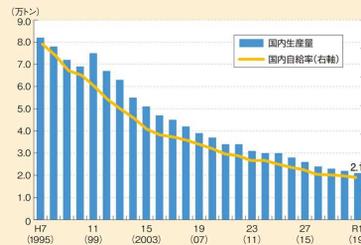
資料: 総務省「家計調査」(2人以上の世帯)

資料Ⅱ-27 きのご類の価格の推移



注1: 乾しいたけの価格は全国主要市場における年平均価格(全品別の平均価格)。
 注2: ひらたけの価格は平成26(2014)年までは東京都中央卸売市場における年平均価格、平成27(2015)年以降は生産者出荷価格。
 資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

資料Ⅱ-28 木炭の生産量の推移



注: 生産量は、黒炭、白炭、粉炭、竹炭、オガ炭の合計。
 資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

資料Ⅱ-29 薪の生産量(販売向け)と価格の推移



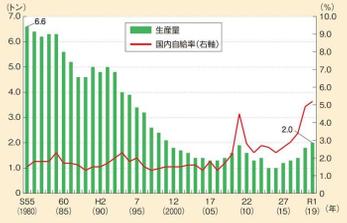
注1: 生産量は丸太換算値。1立木mを丸太0.625mに換算。
 注2: 価格は卸売業者仕入価格。
 資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

資料Ⅱ-30 竹材の国内生産量の推移



資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

資料Ⅱ-31 国産漆生産量の推移



資料: 林野庁「特用林産基礎資料」

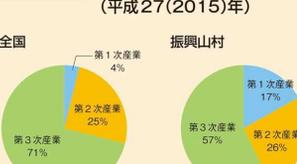
3. 山村(中山間地域)の動向

資料Ⅱ-32 全国に占める振興山村の割合



注: 総土地面積及び林野面積は平成27(2015)年2月1日現在。人口は平成27(2015)年10月1日現在。
 資料: 総務省「平成27年国勢調査」、農林水産省「2015年農林業センサス」を基に林野庁作成。

資料Ⅱ-33 産業別就業人口の割合(平成27(2015)年)

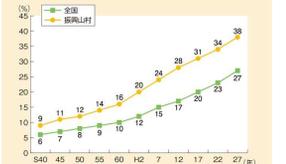


注: 総数には「分類不能の産業」を含まない。
 資料: 総務省「平成27年国勢調査」を基に林野庁作成。

資料Ⅱ-34 全国と振興山村の人口及び高齢化率の推移

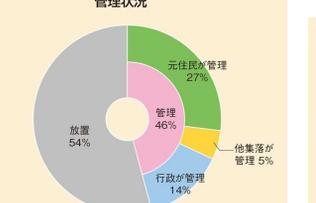


資料Ⅱ-35 過疎地域の集落の状況



注: 「山間地」は、林野率が90%以上の集落。「中間地」は、山間地と平地の中間にある集落。「平地」は、林野率が50%未満かつ耕地率が20%以上の集落。
 資料: 総務省及び国土交通省「過疎地域等における集落の状況に関する現状把握調査」(令和2(2020)年3月)

資料Ⅱ-36 消滅集落跡地の森林・林地の管理状況



注: 「該当なし」及び「無回答」を除いた合計値から割合を算出。
 資料: 総務省及び国土交通省「過疎地域等における集落の状況に関する現状把握調査」(令和2(2020)年3月)

資料Ⅱ-37 山村地域の集落で発生している問題上位10回答(複数回答)



注: 市町村担当者を対象とした調査結果。
 資料: 総務省及び国土交通省「過疎地域等における集落の状況に関する現状把握調査」(令和2(2020)年3月)

資料Ⅱ-38 都市と農山漁村の交流に関する意識



資料: 内閣府「農山漁村に関する世論調査」(平成26(2014)年6月調査)

資料Ⅱ-38 都市と農山漁村の交流に関する意識

【都市地域と農山漁村地域の交流の必要性】

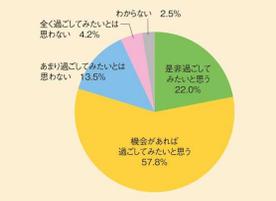


資料：内閣府「農山漁村に関する世論調査」（平成26（2014）年6月調査）

【学校が提供する体験学習に対する意識】



資料Ⅱ-39 農山村滞在型の余暇生活への関心度



注：消費者モニターを対象とした調査結果であり、この調査での「消費者」は、農水産物消費に積極的である20歳以上の若者で、原則としてパソコンでインターネットを利用できる環境にある若者。
資料：農林水産省「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」（平成27（2015）年10月）

資料Ⅱ-40 森林空間利用に対するニーズ（複数回答）



資料：内閣府「森林と生活に関する世論調査」（令和元（2019）年10月）

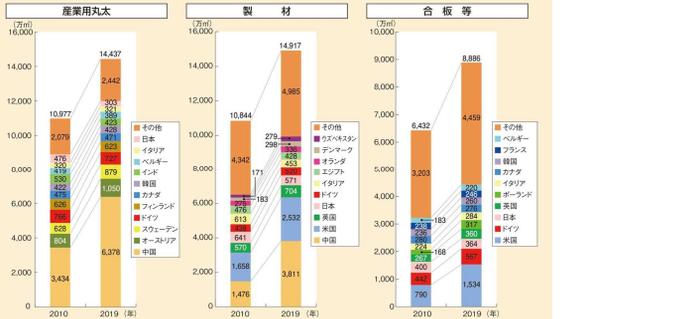
第Ⅲ章 木材需給・利用と木材産業
1. 木材需給の動向

資料Ⅲ-1 世界の産業用丸太消費量及び輸入量の推移



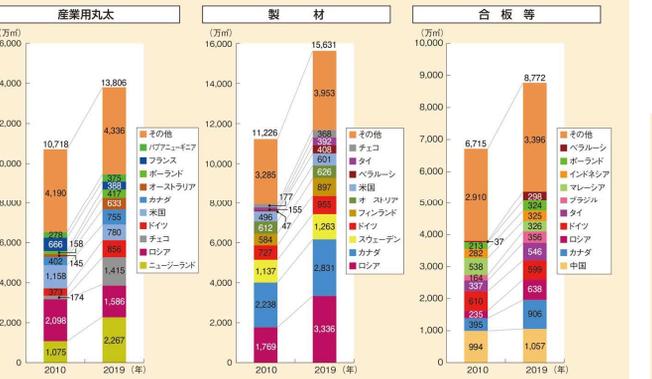
注：消費量は生産量に輸入量を加え、輸出量を除いたもの。
資料：FAO「FAOSTAT」（2021年3月1日現在有効なもの）

資料Ⅲ-2 世界の木材（産業用丸太・製材・合板等）輸入量（主要国別）



注1：合板等には、合板・パーティクルボード、OSB及び繊維板を含む。
注2：計の不一致は四捨五入による。
資料：FAO「FAOSTAT」（2021年3月1日現在有効なもの）

資料Ⅲ-3 世界の木材（産業用丸太・製材・合板等）輸出量（主要国別）



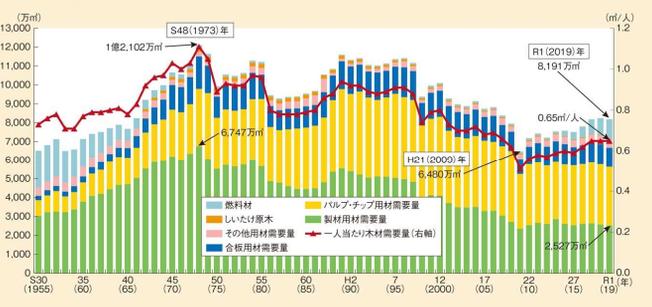
注1：合板等には、合板・パーティクルボード、OSB及び繊維板を含む。
注2：計の不一致は四捨五入による。
資料：FAO「FAOSTAT」（2021年3月1日現在有効なもの）

資料Ⅲ-4 RCEP協定における林産物の交渉結果

林産物の輸入アクセス交渉結果		林産物の輸出アクセス交渉結果				
国名	合意内容	国名	現在の関税率 ^{注1}	合意内容	備考 ^{注2}	
ASEAN、 豪州、NZ	関税撤廃率は、TPP、EJU・EPAよりも大幅に低く、既決EPAの範囲内。	中国	10%	合板（針葉樹）	2% 11年目撤廃	[4%]
中国	半数の品目を関税削減・撤廃から除外。 (例)合板、製材(SPF)、構造用集成材等 関税削減・撤廃は、輸入実績ゼロ又は少額の品目のみ。			加工木材（針葉樹）	3% 11年目撤廃	[7.5%]
韓国	約1/3の品目を関税削減・撤廃から除外。 (例)合板、製材(SPF)、構造用集成材等 関税削減・撤廃は、輸入実績ゼロ又は少額の品目のみ。	韓国	8%	建築用木工品（窓、戸、杭、梁）	10年目撤廃	[8%]

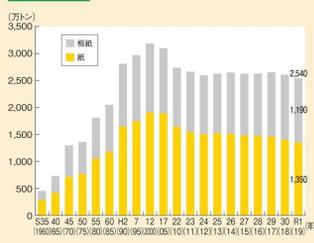
注1：現行関税率は、令和2（2020）年11月時点のもの。
注2：基準税率（RCEP交渉のベースとなった平成26（2014）年1月1日時点の税率）。

資料Ⅲ-5 木材需要量の推移



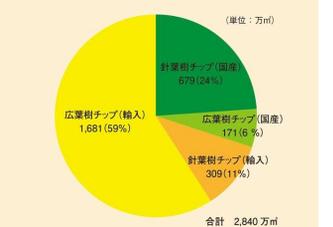
注：平成26（2014）年から燃料用チップを「燃料材」に加えている。
資料：林野庁「木材需給表」

資料Ⅲ-6 紙・板紙生産量の推移



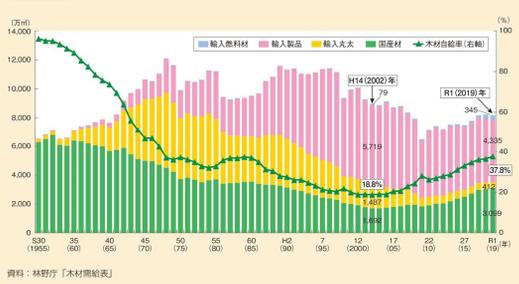
資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統制編」

資料Ⅲ-7 パルプ生産に利用されたチップの内訳

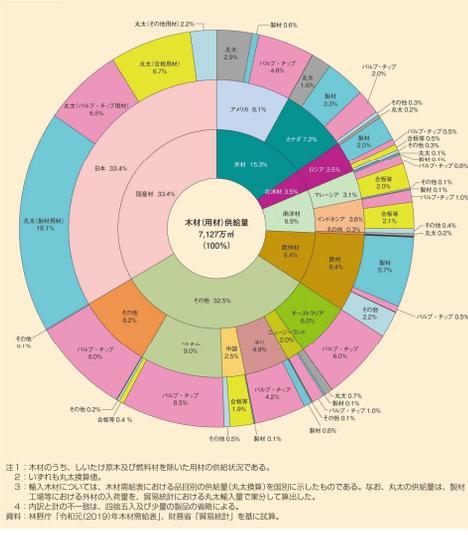


注1：国産チップには、輸入材の残材・廃材や輸入丸太から製造されるチップを含む。
注2：パルプ生産に利用されたチップの数量であり、パーティクルボード、ファイバーボード等の原料や、発電等エネルギー源（燃料材）として利用されたチップの数量は含まれていない。
なお、ボード等原料及び木材（パルプの形態での輸入を含む）、パルプ・チップ用材全体（燃料材を除く。）の原料丸太ベースの需給については、資料Ⅲ-10（162ページ）の「パルプ・チップ用」を参照。
資料：経済産業省「2019年経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統制編」

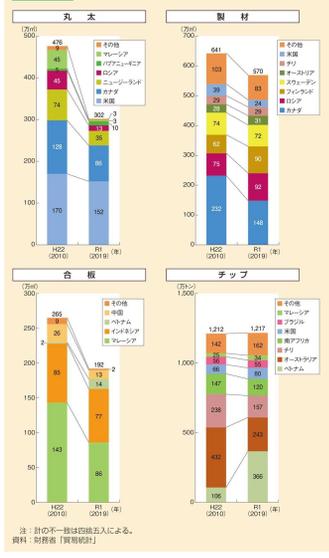
資料Ⅲ-8 木材供給量と木材自給率の推移



資料Ⅲ-9 我が国の木材(用材)供給状況(令和元(2019)年)



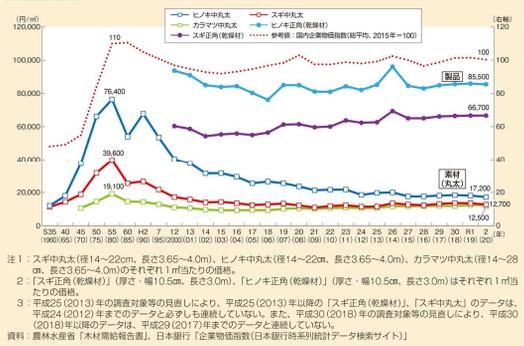
資料Ⅲ-10 我が国における木材輸入量(国別)の推移



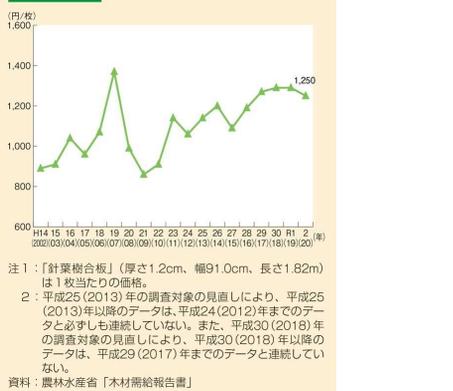
資料Ⅲ-11 令和元(2019)年の木材需給の構成



資料Ⅲ-12 我が国の木材価格の推移



資料Ⅲ-13 針葉樹合板価格の推移



資料Ⅲ-14 紙・パルプ用木材チップ価格の推移



資料Ⅲ-15 我が国の木材輸出額の推移



資料Ⅲ-16 「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」の概要

マーケットイン輸出への転換のために

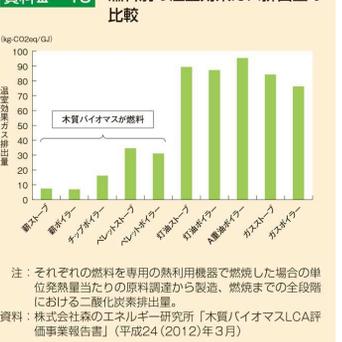
戦略の趣旨
 2025年2月分・2030年5月分目標の達成には、海外市場で求められるスペック(値・価格、品質・規格)の確保を専門的・継続的に生産・販売する(「マーケットイン」)積極的取組が不可欠

3つの基本的な考え方と具体的な施策

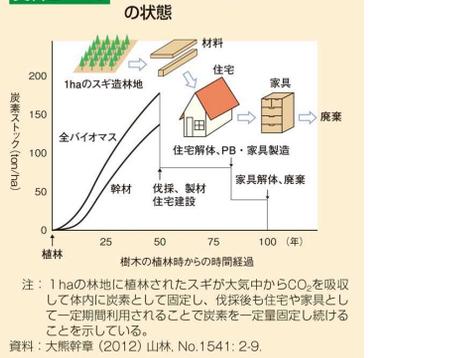
1. 日本の強みや特徴を活かす品目・品目の特定と輸出目標の算定
2. マーケティングの発想で輸出に取組む事業者への支援
3. 官庁の連携を促進して輸出の円滑化を図る

農林水産省に「輸出・国際局」(仮称)を創設し、政府全体の司令系統として農林水産物・食品輸出の推進等を通じて、円滑化を図る。輸出関連部署を政府一体となって実施する。

資料Ⅲ-18 燃料別の温室効果ガス排出量の比較



資料Ⅲ-19 木材利用における炭素ストックの状態



2. 木材利用の動向

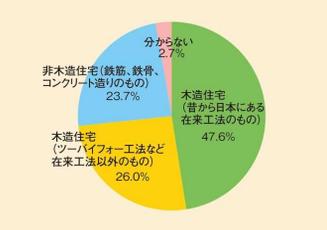
資料Ⅲ-17 住宅一戸当たりの炭素貯蔵量と材料製造時の二酸化炭素排出量



資料Ⅲ-20 森林資源の循環利用(イメージ)



資料Ⅲ-21 森林と生活に関する世論調査
木造住宅の意向に関する調査結果



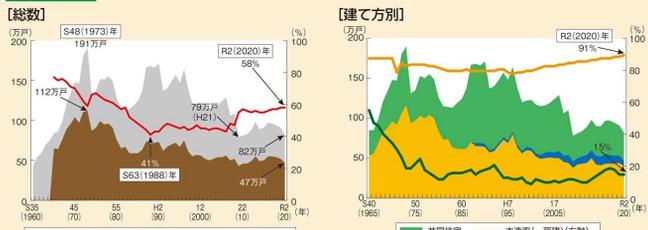
資料：内閣府「森林と生活に関する世論調査」(令和元(2019)年10月)

資料Ⅲ-22 階層別・構造別の着工建築物の床面積



注：住宅とは居住専用住宅、居住専用準住宅、居住産業併用建築物の合計であり、非住宅とはこれら以外をまとめたものとした。
資料：国土交通省「建築着工統計調査2020年」より林野庁作成。

資料Ⅲ-23 新設住宅着工戸数と木造率の推移



注1：新設住宅着工戸数は、一戸建、長屋建、共同住宅(主にマンション、アパート等)における戸数を集計したものを、資料2：昭和39(1964)年以前は木造の着工戸数の統計がない。
資料：国土交通省「住宅着工統計」

資料Ⅲ-24 木造3階建て以上の共同住宅の
建築確認棟数の推移



資料：国土交通省「木造3階建て住宅及び丸太組構法建築物の建築確認統計」

資料Ⅲ-25 「顔の見える木材での家づくり」
グループ数及び供給戸数の推移



注：供給戸数は前年実績。
資料：林野庁木材産業課調べ。

資料Ⅲ-26 木材利用の事例



資料Ⅲ-27 建築物全体と公共建築物の木造率の推移



注1：国土交通省「建築着工統計調査2019年度」のデータを基に林野庁が試算。
注2：木造とは、建築基準法第2条第5号の主要構造部(壁、柱、床、はり)、屋根又は階段に木材を使用したものをいう。
注3：木造率の試算の対象には住宅を含む。また、新築、増築、改築を含む(低層の公共建築物については新築のみ)。
注4：「公共建築物」とは国及び地方公共団体が建築する全ての建築物並びに民間事業者が建築する教育施設、医療・福祉施設等の建築物をいう。
資料：林野庁プレスリリース「令和年度度の公共建築物の木造率について」(令和3(2021)年3月26日付け)

資料Ⅲ-28 都道府県別公共建築物の木造率
(令和元(2019)年度)

都道府県	公共建築物 木造率(%)	うち低層 木造率(%)
北海道	48.5	34.1
青森	65.5	36.6
岩手	64.1	35.0
宮城	51.9	43.2
秋田	66.6	37.1
山形	61.0	27.5
福島	52.8	21.6
茨城	48.8	22.0
栃木	52.5	19.1
群馬	53.5	26.5
埼玉	47.8	14.8
千葉	44.1	21.2
東京	27.9	4.2
神奈川	41.9	5.7
新潟	61.2	24.0
富山	52.6	20.8
石川	49.2	13.4
福井	54.8	13.7
山梨	52.7	20.0
長野	53.3	24.6
岐阜	49.1	12.6
静岡	48.6	13.0
愛知	43.5	19.8
三重	52.6	22.9
滋賀	40.3	12.7
京都	34.3	7.0
大阪	33.7	5.7
兵庫	45.9	8.0
奈良	51.9	14.1
和歌山	50.5	18.3
鳥取	58.4	15.0
島根	57.7	24.5
岡山	46.3	13.5
広島	44.2	8.6
山口	47.7	15.4
徳島	50.9	12.8
香川	50.8	20.0
愛媛	51.2	18.3
高知	51.2	22.7
福岡	38.4	13.2
佐賀	50.1	10.6
熊本	44.9	11.0
大分	51.8	18.0
宮崎	51.4	24.7
鹿児島	55.0	26.1
沖縄	10.6	0.6
全国	43.9	13.6

注1：木造とは、建築基準法第2条第5号の主要構造部(壁、柱、床、はり、屋根又は階段)に木材を使用したものをいう。
注2：木造率の試算の対象には住宅を含む。また、新築、増築、改築を含む(低層の公共建築物については新築のみ)。
注3：「公共建築物」とは国及び地方公共団体が建築する全ての建築物並びに民間事業者が建築する教育施設、医療・福祉施設等の建築物をいう。
資料：国土交通省「建築着工統計調査2019年度」のデータを基に林野庁が試算。

資料Ⅲ-29 国が整備する公共建築物における木材利用推進状況

整備及び使用実績	単位	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度
基本方針において積極的に木造化を促進するとされている低層(3階建て以下)の公共建築物等 ¹⁾	棟数 [A]	127	98	83
	延べ面積 (㎡)	14,293	11,957	14,011
うち、木造で整備を行った公共建築物	棟数 [B]	80	77	72
	延べ面積 (㎡)	9,457	9,051	13,698
うち、各層各戸において木造化になじまない等と判断された公共建築物	棟数	47	21	11
うち、施設が必要とする機能等の観点から木造化が困難であったもの ²⁾	棟数 [C]	23	13	3
うち、木造化が可能であったもの	棟数	24	8	8
木造化率 [B/A]		63.0%	78.6%	86.7%
施設が必要とする機能等の観点から木造化が困難であったものを除いた木造化率 [B/(A-C)]		76.9%	90.6%	90.0%
内装等の木質化を行った公共建築物 ³⁾	棟数	171	169	132
木材の使用量 ^{3,4)}	㎡	3,139	4,206	5,372

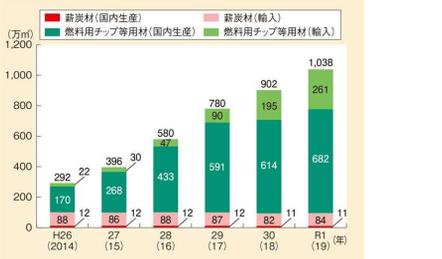
注1：基本方針において積極的に木造化を促進するとされている低層の公共建築物等とは、国が整備する公共建築物(新築等)から、以下に該当する公共建築物に限るもの。
○建築基準法第2条の法令に基づき木造において耐火建築物とする必要又は主要構造部を耐火構造とする必要がある公共建築物
○当該建築物に求められる機能等の観点から、木造化になじまない又は木造化を設けることが困難であると判断されると明示されている公共建築物
○消防等の取組施設
(例)：災害時の活動拠点等や有する災害応対構築活動に必要な施設
○消防等の取組施設
○治安上防犯上の目的から木造以外の構造とすべき施設
○危険物を貯蔵又は使用する施設等
○低層建築物等の他の文化的価値の高い建築物
○博物館内の文化財を収蔵し、若しくは展示する施設
○法施行前に非木造建築物として予算化された公共建築物
ただし、令和元年度は、これらに該当するものであっても、耐火建築物とすることが求められるもの(空母)、「防犯等の取組施設等」を有する木造建築物(防犯施設)に必要ない新築(1棟)、「業務所等の取組施設」(1棟)及び「博物館内の文化財を収蔵、若しくは展示する施設」(1棟)が木造化されたため、それら棟を対象に加えて記載。
注2：林野庁・国土交通省の検証チームより、各層各戸において木造化になじまない等と判断された公共建築物について、各層各戸にヒアリングを行い、検証・分類した。
注3：木造で整備を行った公共建築物の母数に基いたものである。
注4：当該年間に計画した公共建築物において、木造及び木質化による木材使用量。木造で整備を行った公共建築物のうち、使用量が不明なもの約0.22㎡/㎡で推定した使用量。また、内装等に木材を使用した公共建築物で、使用量が不明なものについての木材使用量は未計上。
資料：林野庁・国土交通省による検証チームの検証結果等に基づき、林野庁木材利用課作成。

資料Ⅲ-30 原木とその用途



資料：林野庁作成。

資料Ⅲ-31 燃料材の国内消費量の推移



注1：薪炭材とは、木炭用材及び薪用材である。
注2：いずれも丸太換算値。
資料：林野庁「木材簡給表」

資料Ⅲ-43 木造軸組住宅の部別別材材使用割合



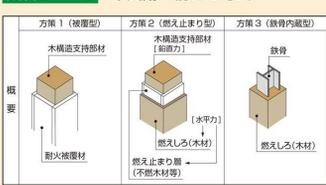
注1: 国産材と輸入材の異種混用割合の集材材等、合板は国産材として計上。
 注2: 割合の計、平均使用量の計の不一致は、単位未満の四捨五入による。
 資料: 一般社団法人日本木造住宅産業協会「木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査報告書(第5号)(2019)」より林野庁木材産業課作成。

資料Ⅲ-44 製材品出荷量(用途別)の推移



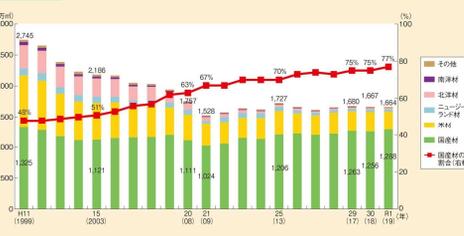
資料: 農林水産省「木材需給報告書」

資料Ⅲ-42 木質耐火構造の方式



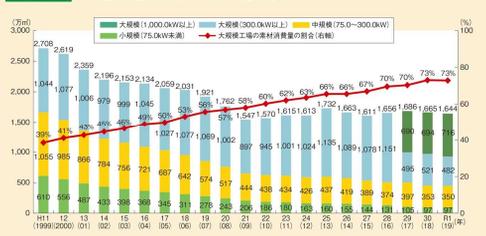
資料: 一般社団法人木を活かす建築推進協議会(2013)「ここまでできる木造建築の計画」

資料Ⅲ-45 国内の製材工場における素材入荷量と国産材の割合



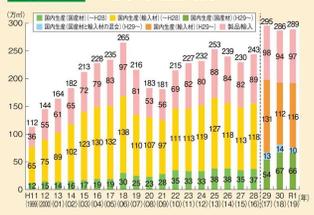
注: 令和元(2019年)の「その他」は「南洋材」を含む。
 資料: 農林水産省「木材需給報告書」

資料Ⅲ-46 製材工場の出力規模別の素材消費量の推移



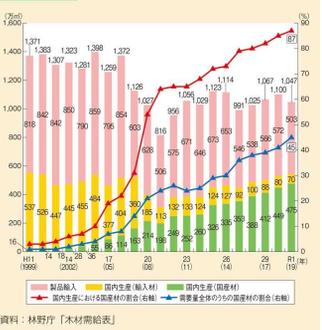
注: 計上不一致は四捨五入による。
 資料: 農林水産省「木材需給報告書」

資料Ⅲ-47 集成材材の推移



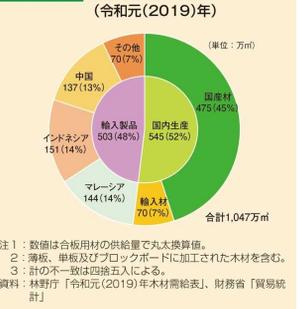
注: 「国内生産(国産材)〜(H26)」と「国内生産(輸入材)〜(H26)」は産成原料の地域別取組比率から計算した値。
 注2: 「製材輸入」は輸入統計品目表4412.10品目9、4412.94品目120、190、4412.99品目120〜190、4418.91品目291、4418.99品目231〜239の合計。
 注3: 計上不一致は四捨五入による。
 資料: 国内生産の産成材については、平成28(2016)年までは、日本木材工業協会月報「平成29(2017)年以降は、農林水産省「木材需給報告書」。「製材輸入」については、財務省「貿易統計」。

資料Ⅲ-48 合板用材の供給量の推移



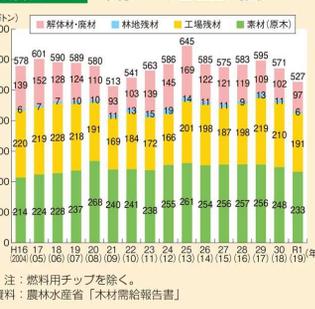
資料: 林野庁「木材需給」

資料Ⅲ-49 合板供給量の状況(令和元(2019年))



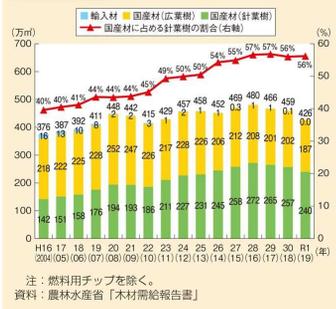
注1: 数値は合板用材の供給量で丸大換算値。
 注2: 薄板、単板及びブロックボードに加工された木材を含む。
 注3: 計上不一致は四捨五入による。
 資料: 林野庁「令和元(2019)年木材需給表」、財務省「貿易統計」

資料Ⅲ-50 木材チップ生産量の推移



注: 燃料用チップを除く。
 資料: 農林水産省「木材需給報告書」

資料Ⅲ-51 木材チップ用素材入荷量の推移



注: 燃料用チップを除く。
 資料: 農林水産省「木材需給報告書」

資料Ⅲ-52 木造軸組構法におけるプレカット率の推移



資料: 一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ。

資料Ⅲ-53 合板・製材・構造用集成材等の木材製品の国際競争力強化



第IV章 国有林野の管理経営
 1. 国有林野の役割

2. 国有林野事業の具体的取組

資料Ⅳ-2 国有林が果たすべき役割(複数回答3つまで)



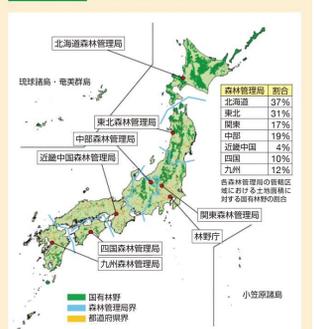
資料: 内閣府「森林と生活に関する世論調査」(令和元(2019)年10月)

資料Ⅳ-3 機能類型区分ごとの管理経営の考え方

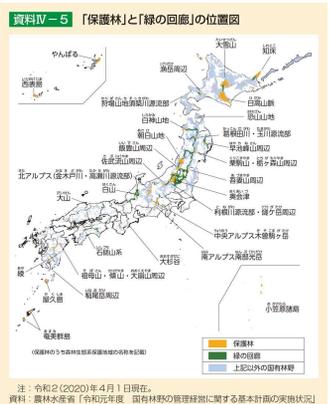
機能類型区分	管理経営の考え方
山地災害防止タイプ 147万ha	根や表土の保全、下層植生の発達した森林の維持
自然維持タイプ 171万ha	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の生育・生息に適した森林の維持
森林空間利用タイプ 47万ha	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林の維持・造成
快適環境形成タイプ 0.2万ha	汚染物質の高い吸着能力、抵抗力がある樹種から構成される森林の維持
水源涵養タイプ 393万ha	人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成視層林への誘導等を推進し、森林資源の有効活用に配慮

注: 面積は、令和元(2020)年4月1日現在の数値である。
 資料: 農林水産省「令和元年度 国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」

資料Ⅳ-1 国有林野の分布



資料: 国有林野の面積は農林水産省「令和元年度 国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」、土地面積は国土交通省「令和2年全国都道府県市区町村別面積積算(7月1日時点)」。



資料Ⅳ-6 我が国の世界自然遺産の陸域に占める国有林野の割合

遺産名	陸域面積 (ha)	国有林野面積 (ha)	国有林野の割合
知床	48,700	45,989	94%
白神山地区	16,971	16,971	100%
屋久島	10,747	10,260	95%
小笠原諸島	6,358	5,170	81%
計	82,776	78,390	95%

資料：林野庁経営企画課調べ。

資料Ⅳ-7 公益的機能維持増進協定の締結状況

概要	森林管理局	協定区域の管轄管署等	協定面積数 (ha)	協定面積 (ha)
森林整備(間伐)の実施	東北	上小阿仁支署	1	31
		山台森林管理署	1	7
	関東	天竜森林管理署	2	60
		塩原森林管理署	1	24
		茨城森林管理署	2	65
		日光森林管理署	4	231
	中部	北陸森林管理事務所	2	27
	近畿中国	奈良森林管理事務所	1	27
		広島北部森林管理署	1	14
		四国 高松森林管理署	1	47
九州	鹿児島森林管理署	1	38	
	北薩森林管理署	1	21	
	関東 関東森林管理局	1	2	
外來種の駆除	九州	屋久島森林管理署	1	1
計			20	595

注1：計の不一致は四捨五入による。
注2：令和2(2020)年3月末現在の状況。
注3：協定数2のうち、上小阿仁支署、天竜署1か所、日光署2か所、奈良、北薩、鹿児島、関東東(局直轄)、屋久島の協定は終了している。
資料：林野庁経営企画課調べ。

資料Ⅳ-8 国有林野事業の現場を活用した現地検討会等の実施状況

区分	実施状況
実施回数	295回
延べ参加人数	10,699人
うち民有林関係者	4,540人

注1：令和元(2019)年度に、森林管理局や森林管理署等が主催又は共催した、作業システム、低コスト造林等をテーマとした現地検討会等の実施状況。
注2：民有林関係者とは、国有林野事業職員以外で、地方公共団体や林業事業体の職員等。
資料：農林水産省「令和元年度 国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」



資料Ⅳ-15 「レクリエーションの森」の設定状況

レクリエーションの森の種類	箇所数	面積 (千ha)	利用者数 (百万人)	代表的なレクリエーションの森(都道府県)
自然休養林	83	95	11	高尾山(東京)、赤沢(長野)、剣山(徳島)、屋久島(鹿児島)
自然観察教育林	92	24	14	白神山地区(青森)、白神(福島)、金華山(岐阜)
風景林	170	87	74	えりも(北海道)、芦ノ湖(神奈川県)、嵐山(京都)
森林スポーツ林	28	3	3	御池(福島)、滝越(長野)、扇ノ仙(鳥取)
野外スポーツ地域	167	50	17	天狗山(北海道)、裏磐梯デコ平(福島)、向坂山(宮崎)
風致探訪林	80	14	8	湯身平(山形)、駒ヶ岳(長野)、虹ノ松原(佐賀)
合計	620	273	127	

注1：箇所数及び面積は、令和2(2020)年4月1日現在の数値であり、利用者数は令和元(2019)年度の参考値である。
注2：計の不一致は四捨五入による。
資料：農林水産省「令和元年度 国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」

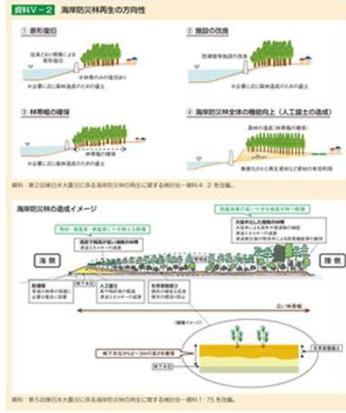
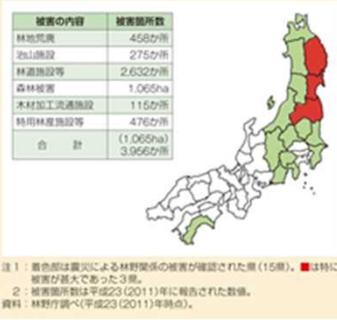
資料Ⅳ-16 「日本美しの森 お薦め国有林」の例

注：各森林管理局の管轄区域における箇所数である。
資料：林野庁経営企画課作成。「日本美しの森 お薦め国有林」のホームページのQRコード

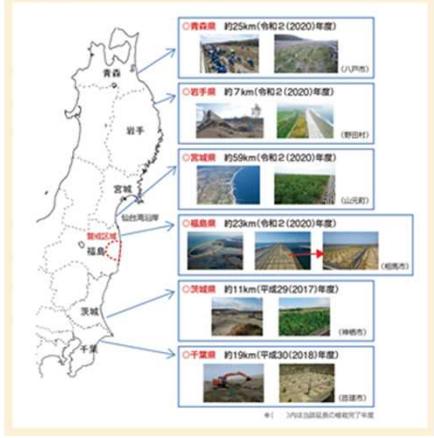
第V章 東日本大震災からの復興

1. 復興に向けた森林・林業・木材生産の取組

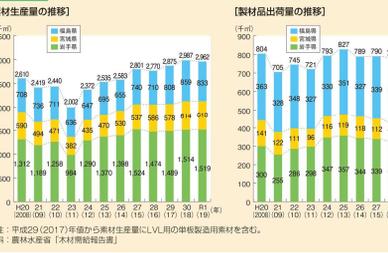
資料V-1 東日本大震災による林野関係の被害



資料V-3 被災直後と現在の海岸防災林の様子



資料V-4 岩手県、宮城県、福島県における素材生産量及び製材品出荷量の推移



資料V-5 全国及び東北地方6県の普通合板生産量の推移



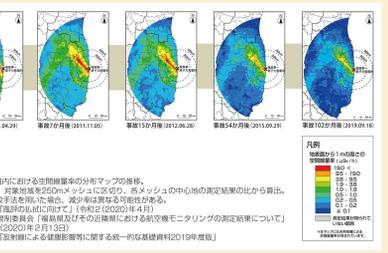
資料V-6 避難指示区域の概念図(令和2(2020)年3月10日時点)



資料V-10 調査地における部位別の放射性セシウム蓄積量の割合の変化



資料V-7 航空機モニタリングによる空間線量率の経年変化



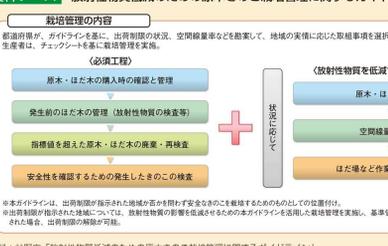
資料V-8 福島県の森林・林業の再生に向けた総合的な取組(骨子)

- 福島では、多くの人的被害とともに、林業を基とする生活を営んでこられた。福島県の森林・林業の再生は、福島復興にとって大変重要なものである。福島復興に向けた安全・安心の確保、森林・林業の再生に向けて、県民の理解を得ながら、関係者が連携して、以下の取組を総合的に進めていく。
- 1. 森林・林業の再生に向けた取組**
 - 生活環境の安全・安心の確保に向けた取組
 - 生活環境の安全・安心の確保のために、住環境の改善のための森林の整備を引き続き実施するとともに、必要に応じて、三つを森林に囲まれた居住地域の半径から20m圏の森林の除去作業を速やかに行う。
 - 広域森林の整備と再生に向けた取組
 - 住環境の改善のための森林の整備を踏まえ、森林内の伐倒木の堆積や人的被害防止を目的として、必要に応じて、三つを森林に囲まれた居住地域の半径から20m圏の森林の除去作業を速やかに行う。
 - 上記に加え、避難指示区域(既に解除された区域も含む)及びその周辺の地域において、モデル地区を選定し、中山間地を主とするための取組を総合的に推進し、その結果を他の地域に反映。
 - 中山間の森林整備に向けた取組
 - 関係者の連携強化と関係者に対する取組に関する取組や、林業再生に向けた取組に関する取組を推進。
 - 作業現場における安全・安心対策の推進。
 - 2. 調査研究等の取組に向けた取組の実施**
 - 森林の放射線モニタリング、放射性物質の動態把握や放射線低減のための調査研究に引き続き取り組む。
 - 関係者の連携強化と関係者に対する取組に関する取組や、林業再生に向けた取組に関する取組を推進。
 - 3. 情報発信とコミュニケーション**
 - 森林の放射性物質に関する取組を広く知らせ、森林・林業の再生のための取組の推進を図る。
 - 関係者の連携強化と関係者に対する取組に関する取組や、林業再生に向けた取組に関する取組を推進。
- 資料：環境省「福島県における森林・林業の再生に向けた総合的な取組(骨子)」(平成23(2011)年9月9日開催)。

資料V-9 福島県の森林内の空間線量率の推移



資料V-11 放射性物質低減のための原木きのこ栽培管理に関するガイドラインの概要

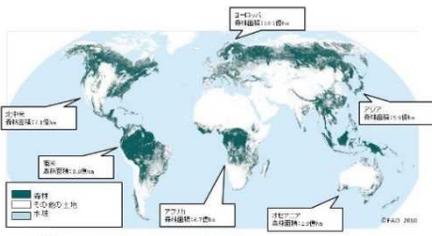


資料V-12 きのご原木のマッチングの状況



資料V-13 東日本地域(北海道を除く17都県)におけるしいたけ生産量の推移





世界の森林分布



写真: 伝統的な木材採取の風景(中)に写っている森林は樺三(市) (構成: 上野誠) 現代の大規模な木材採取風景 (中) 国産材採取風景 (市) 国産材採取風景 (市) 国産材採取風景 (市)



スギ人工林の造成に要する費用

林業生産における作業システムの変遷



木糸



木糸の製品



「木の文化を支える森」の設定状況

〇「木の文化を支える森」の指定状況

品名	別称(学名/別称)	産地
1 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
2 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
3 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
4 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
5 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
6 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
7 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
8 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
9 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
10 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
11 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
12 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
13 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
14 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
15 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
16 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
17 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
18 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
19 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
20 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
21 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
22 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
23 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
24 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
25 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
26 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
27 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
28 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
29 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
30 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
31 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
32 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
33 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
34 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
35 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
36 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
37 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
38 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
39 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
40 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
41 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
42 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
43 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
44 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
45 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
46 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
47 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
48 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
49 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形
50 木造校舎の森 (山形県山形市)		山形

「木の文化を支える森」一覧表

参考写真集



学校施設への木材利用



コンテナ苗



チェーンソー伐倒



地域住民に共有財産としての森林管理の考え方を植え付けるため、モデル的に学校林が創設された。写真は植樹祭で力を合わせて木を植える生徒たちの様子。



住民参加による共同森林管理支援（キルギス共和国）



森林学習



木質バイオマス発電設備



貯木場で丸太をストックしている様子



船から木材製品を下ろしている様子



グラップル

丸太を掴んで荷役を行う自主式機械



スイングヤーダ（簡易架線集材機）



アームをタワーとして使用し、主索を用いない簡易な架線による集材機



スーパーロングリーチグラップルを用いた地割

タワーヤーダ（タワー付き集材機）



簡単に架線集材材できる支柱を装備した集材機



スーパーロングリーチグラップルを用いた木寄せ



ハーベスタ（伐倒造材機）

伐倒・枝払・玉切・集積を一貫して行う自主式機械

フォワーダ（積載集材車両）



玉切した材をグラップルローダで荷台に積んで運ぶ自主式機械



フォワーダによる集材作業の見学



プロセッサ（造材機）

枝払・玉切・集積を行う自主式機械



ロングリーチグラップル

本業並みにロングリーチのブームアームを装備したグラップル



ロード入口の案内板の前で今日のコースの説明。事前に予備知識を得ておくことで、積極的に森を楽しむ。



秋になるとブナの黄葉が進み、森が明るくなる。メインロードは数名が並んで歩けるので、和気あいあいと散策できる。

森林セラピー2



セラピーロードを20分ほど歩くと急に目の前がひらけ、飯豊連峰が一望できる。この付近が温身平の中核エリアである。

森林セラピー3



トドマン林 (33年生) における利状調査



夜間林道集によって下木が育っているヒノキ林



プロジェクトの対象となる社有林

健全な森林1



健全な森林2



国有林野から供給したネスコの丸太



ヘギ板を作成する職人



ヘギ板を編んだ網代細工のついでたて



木づかい運動ポスター
提供：特定非営利活動法人 活木活木森ネットワーク

兵庫県宍粟市波賀市民局の庁舎に使用されているスギの心柱



スギ心柱1



スギ心柱2



スギ心柱3



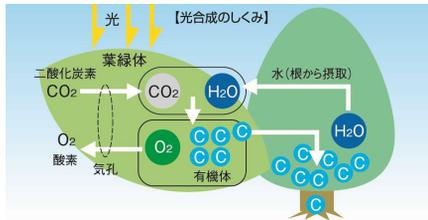
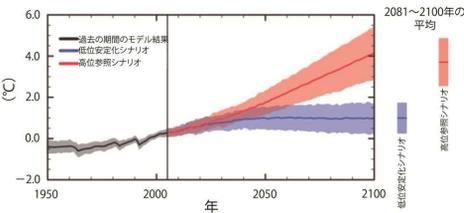
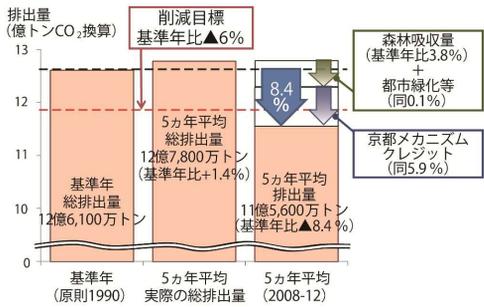
スギ心柱4



スギ心柱5

2 知ってほしい森と木のこと2014

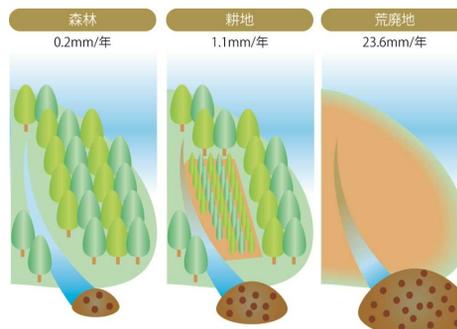
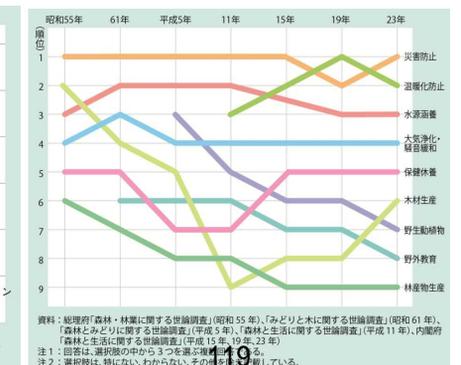
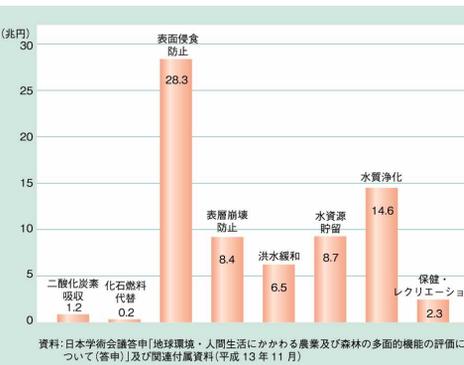
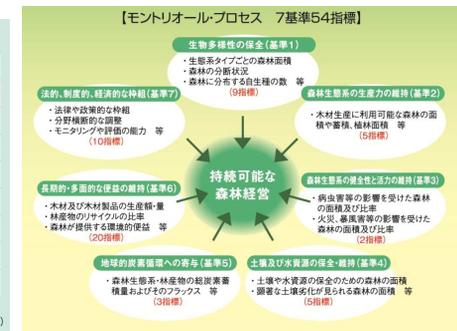
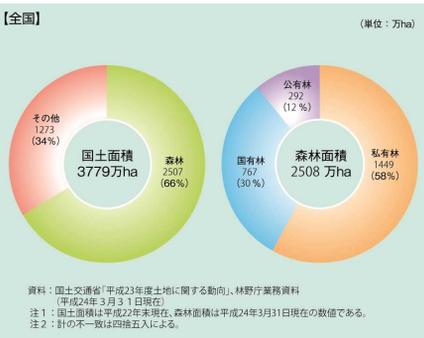
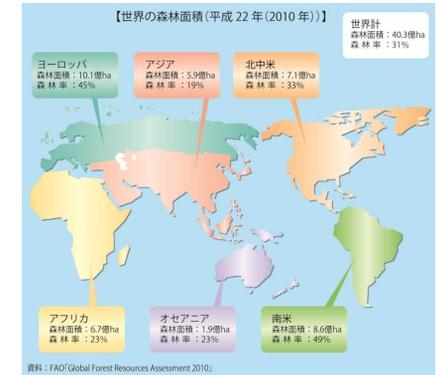
【京都議定書第一約束期間の我が国の温室効果ガス排出量】

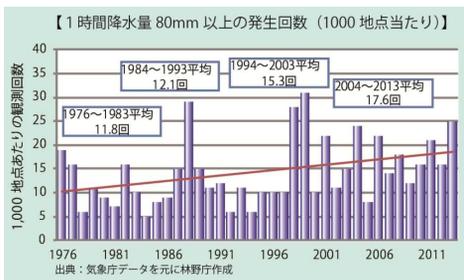


【森林面積の多い上位10カ国】

国名	森林面積(千ha)	森林率(%)
ロシア連邦	809,090	49
ブラジル連邦共和国	519,522	62
カナダ	310,134	34
アメリカ合衆国	304,022	33
中華人民共和国	206,861	22
コンゴ民主共和国	154,135	68
オーストラリア	149,300	19
インドネシア共和国	94,432	52
スウェーデン共和国	69,949	29
インド	68,431	23

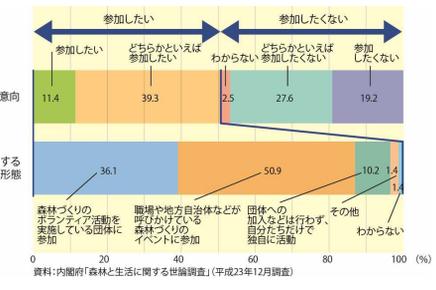
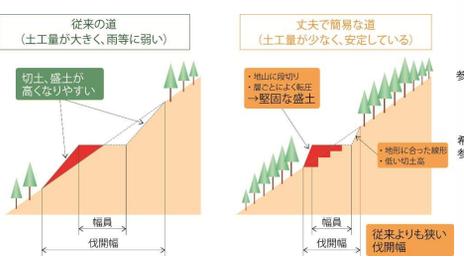
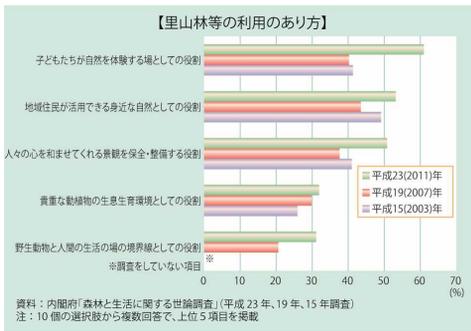
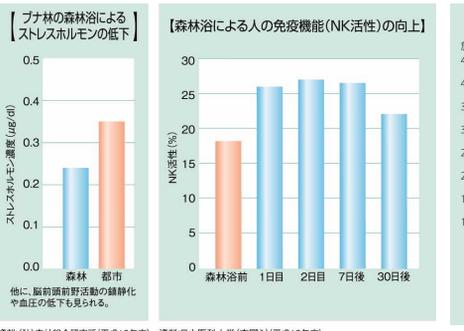
資料: FAO「Global Forest Resources Assessment 2010」



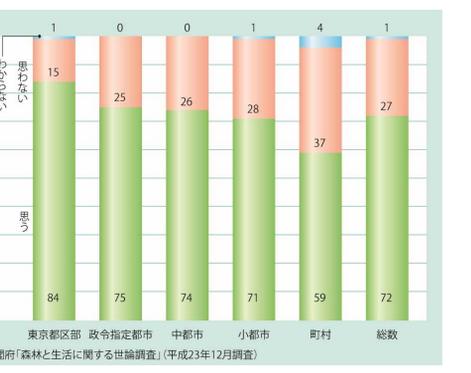
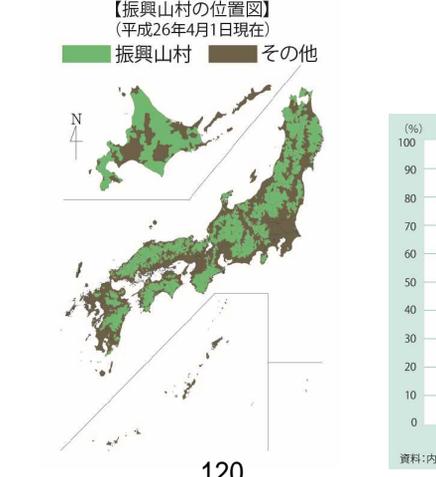
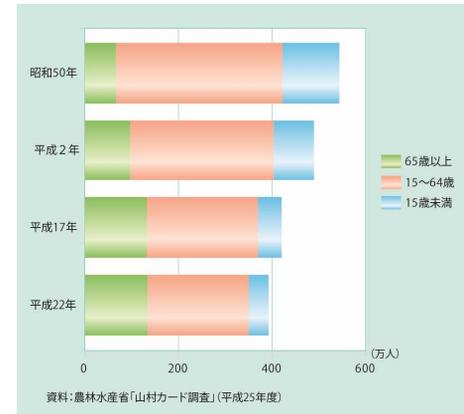
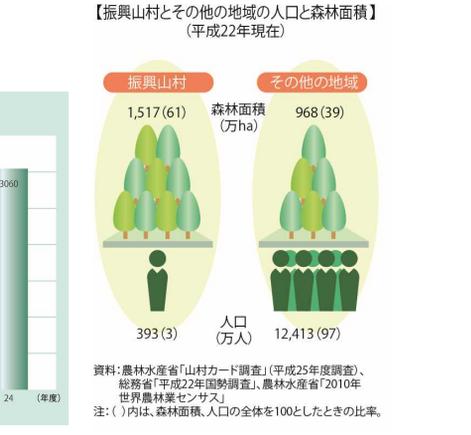
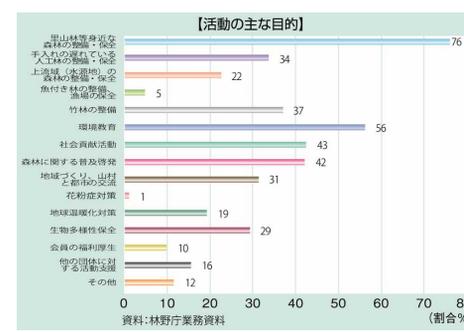


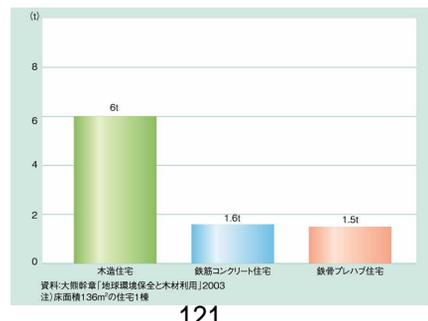
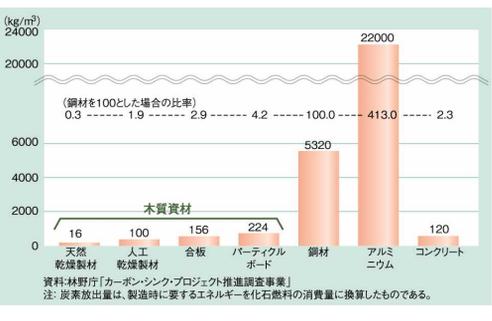
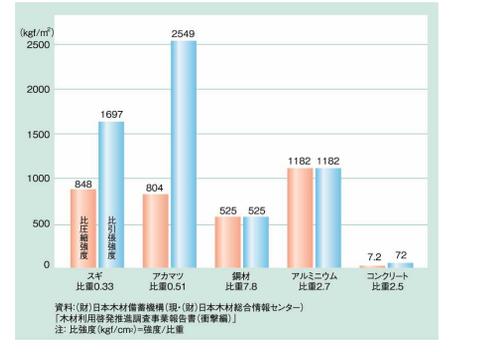
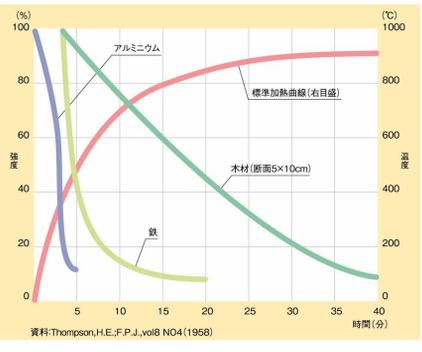
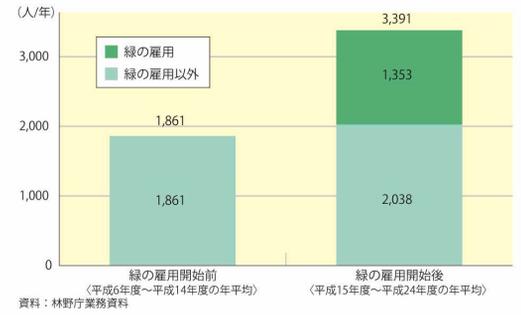
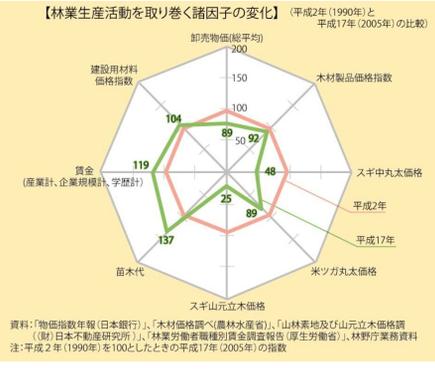
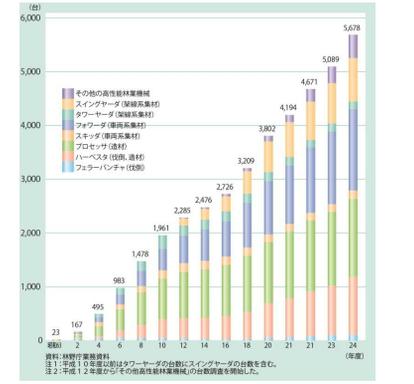
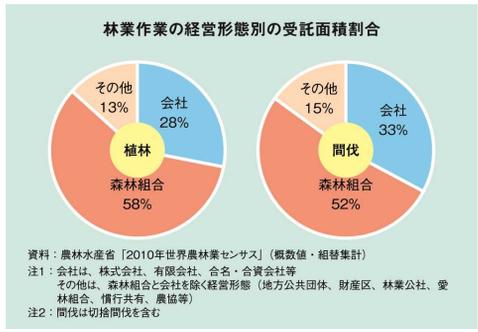
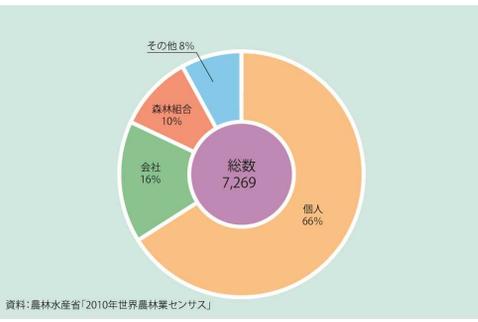
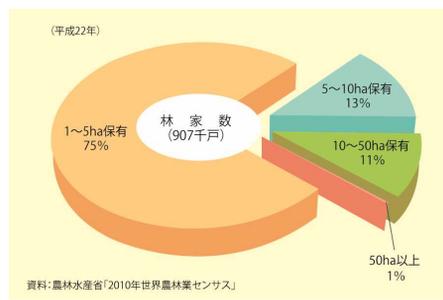
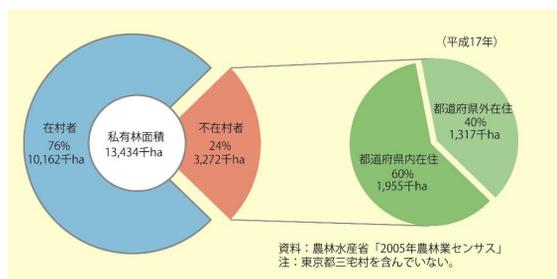
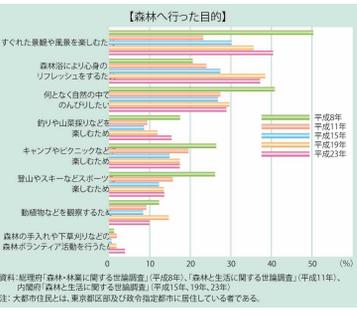
水源かん養保安林	9,128
土砂流出防備保安林	2,564
土砂崩壊防備保安林	59
飛砂防備保安林	16
防風・水害防備・潮害防備・干害防備・防雪・防霧保安林	258
なだれ防止・落石防止保安林	21
防火保安林	0
魚つき保安林	60
航行目標保安林	1
保健保安林	699
風致保安林	28

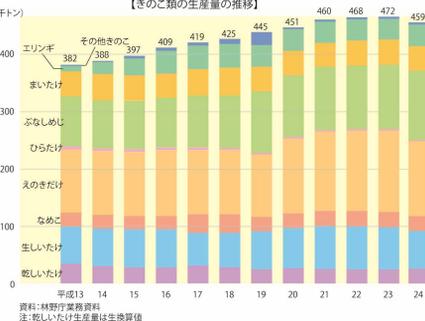
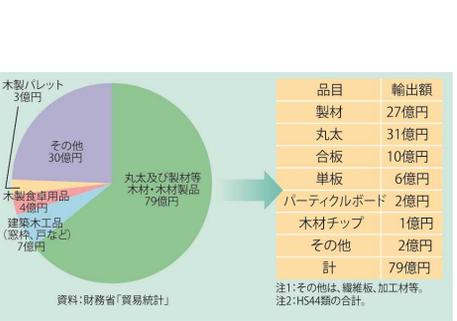
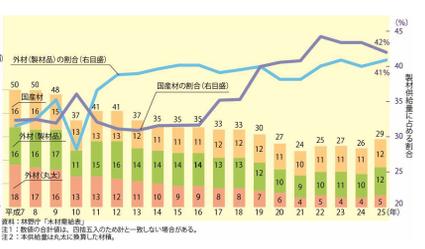
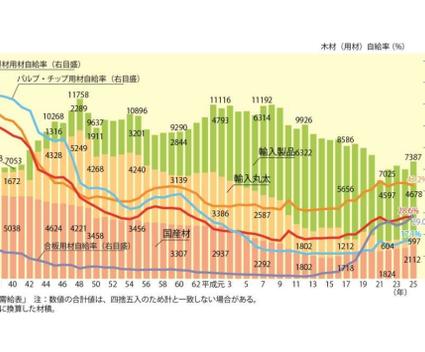
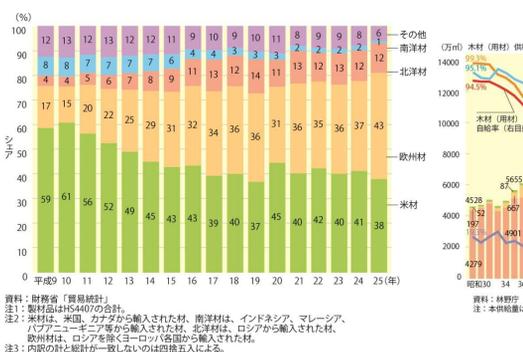
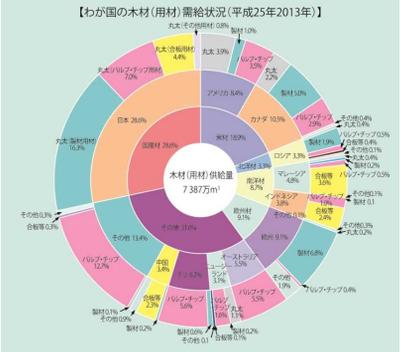
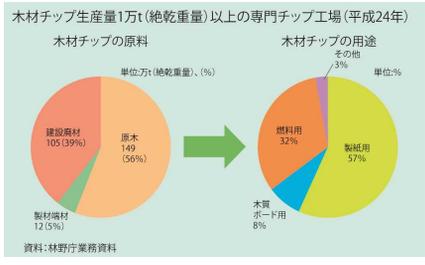
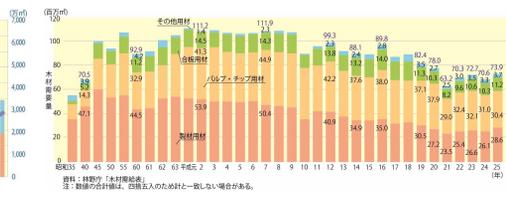
資料：林野庁業務資料
注1：数値は平成25年3月31日現在
注2：2以上の指定目的で重複指定されている保安林はそれぞれ計上している。



名称	実施団体	人数	主な事業内容
技術士(森林部門)	文部科学省	1,131名 (平成26年3月末現在)	文部科学省が所管する国家資格。森林・林業の技術に関するコンサルタント業務。
林業技士	(一社)日本森林技術協会	1,272名 (平成26年4月1日現在)	森林土木等の技術的業務に関する専門知識の実践
森林インストラクター	(一社)全国森林レクリエーション協会	3,087名 (平成26年2月末現在)	一般の人々に対する森林・林業に関する知識の提供、林業の案内、野外活動の指導等
樹木医	(財)日本緑化センター	2,247名 (平成25年12月現在)	「ふるさとのシンボル」として親しまれている巨樹・古木林等の保護や樹勢回復・治療等







参考写真



しいたけの炭火焼き



「伊崎ふれあいの森」での下刈作業や歩道修理 (近畿中国森林管理局滋賀森林管理署)



森林整備を通じて生産された間伐材等



伊勢神宮式年遷宮用資材の供給材等



下刈りをするボランティア団体



簡易な作業路



122 間伐等の施業を適切に実施している森林



コンビニエンスストアの社員、家族らによる植樹活動

ハーベスタ（手前）・
グラブ（中）・フ
ォワード（奥）による
一連の作業システム



黒炭



たらめ



わらび



ぎぼうし



ごこみ



噴火後の雲仙普賢岳
（九州森林管理局長崎
森林管理署）



荒れた国土を緑に蘇らせる事業
（治山事業）により、森林が回復
しています。



荒廃状況（昭和57年）



施工後（昭和63年）



復旧状況（平成18年）

治山事業による崩壊した森林の復旧整備（静岡県静岡市）



漆器



うるし掻き



縄文杉を診断治療する樹木医



小学校の校舎



少花粉スギ品種「雄勝13号」



森のようちえん
（鳥取県智頭町）



森林セラピー
（長野県信濃町）



基礎コース（岡山県の様子：平成20年6月）



基礎実践研修1（グループ協議の様子：平成20年8月）



基礎実践研修2（グループ発表の様子：平成20年11月）



スタッフアップコース（事業体ごとの討議の様子：平成20年10月）

森林施業プランナーの育成



森林整備に必要な林道



水源林造成地（石川県小松市）



水源かん養保安林（宮城県村田町）



雪害



孟宗竹林と竹垣

竹の継ぎ板



竹の新たな利用



木曽森林管理署管内の国有林で開催された現地検討会

土砂流出防備保安林（京都府舞鶴市）



竹の利用と用途の拡大

風致保安林
(島根県安来市)



「法人の森林」(分収造林)での社員や家族による植付作業(関東森林管理局茨城森林管理署)



「平泉古事の森」での植樹
(東北森林管理局岩手南部森林管理署)



平成21年度設定された「平泉古事の森」における森づくり活動に関する協定書締結式



湧別町「やすらぎの森」での自然観察や野鳥の巣箱づくり
(北海道森林管理局網走西部森林管理署)



木々が紅葉している嵐山風景林



緑の募金街頭キャンペーン

(4) 適切な産産や管理の推進

多岐にわたる森林所有者が林業経営への意欲を持っており、林業経営者(林業生産者)のうち約40%は林業経営収入の増大が、事業を行う上での課題として、事業環境改善(国)向上。
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上

(5) 林業の生産性と経営力の向上

林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上

(6) 人材の育成・確保

林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上
● 林業経営者(林業生産者)の事業環境改善(国)向上

(7) 山村の振興

山村は、日本の山間地域の約4割を占め、その人口は約1,000万人を占めており、山村の振興は、山村の振興(国)向上
● 山村の振興(国)向上
● 山村の振興(国)向上
● 山村の振興(国)向上

我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係
● 我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係
● 我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係
● 我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

3 木材産業の現状と課題

3 木材産業の現状と課題

(1) 木材需給の動向

木材需給の動向
● 木材需給の動向
● 木材需給の動向
● 木材需給の動向

(2) 木材産業の競争力の強化

木材産業の競争力の強化
● 木材産業の競争力の強化
● 木材産業の競争力の強化
● 木材産業の競争力の強化

(3) 木材産業の競争力の強化

木材産業の競争力の強化
● 木材産業の競争力の強化
● 木材産業の競争力の強化
● 木材産業の競争力の強化

(4) 流通体制の効率化

流通体制の効率化
● 流通体制の効率化
● 流通体制の効率化
● 流通体制の効率化

(5) 非住宅分野における木材利用の拡大

非住宅分野における木材利用の拡大
● 非住宅分野における木材利用の拡大
● 非住宅分野における木材利用の拡大
● 非住宅分野における木材利用の拡大

(6) 非住宅分野における木材利用の拡大

非住宅分野における木材利用の拡大
● 非住宅分野における木材利用の拡大
● 非住宅分野における木材利用の拡大
● 非住宅分野における木材利用の拡大

(7) 新たな木材製品・技術の開発・普及

新たな木材製品・技術の開発・普及
● 新たな木材製品・技術の開発・普及
● 新たな木材製品・技術の開発・普及
● 新たな木材製品・技術の開発・普及

(8) 木材バイオマスの利用

木材バイオマスの利用
● 木材バイオマスの利用
● 木材バイオマスの利用
● 木材バイオマスの利用

(9) 木材輸出対策と産地振興策

木材輸出対策と産地振興策
● 木材輸出対策と産地振興策
● 木材輸出対策と産地振興策
● 木材輸出対策と産地振興策

4 紙芝居・絵本



雨水のぼうけん（紙芝居・絵本）



もくざいのヒミツ（紙芝居・絵本）

掲載写真一覧表

写真名	写真等提供協力団体
1 日本の森林と自然 1-1 美しい森林を実感 1-1-1 大山	鳥取森林管理署
1-1-2 白山	石川県生活環境部 白山自然保護センター
1-1-3 大杉谷	三重森林管理署
1-1-4 美しの森 お薦め国有林 (近畿中国森林管理局管内20カ所)	近畿中国森林管理局 各署等
1-1-5 巨樹巨木百選 (近畿中国森林管理局管内10カ所)	近畿中国森林管理局 各署等
1-1-6 その他	京都大阪森林管理事務所（嵐山の四季、昔の渡月橋、筏流し） 滋賀森林管理署（上谷山国有林 夏のブナ林） 石川森林管理署（千丈平ブナ植物群落保護林） 島根森林管理署（船通山登山道、カタクリの花）
1-2 日本の世界自然遺産 1-2-1 知床	北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター
1-2-2 白神山地	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター
1-2-3 小笠原諸島	関東森林管理局 小笠原諸島森林生態系保全センター
1-2-4 屋久島	九州森林管理局 屋久島森林生態系保全センター
1-2-5 西表島	九州森林管理局 西表森林生態系保全センター
1-3 箕面の自然 1-3-1 昆虫	大阪府池田土木事務所 大阪府営箕面公園昆虫館
1-3-2 植物 1-3-3 動物 1-3-4 風景 1-3-5 野鳥 1-3-6 キノコ 1-3-7 その他	明治の森箕面国定公園ビジターセンター 元職員 木山雅博氏 元職員 岩佐文夫氏

2 人と森林の関わり 2-1 檜皮葺き・柿葺き・茅葺き等	公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会
2-2 炭焼き体験	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会 一庫公園管理事務所
2-3 東大寺 2-3-1 東大寺大仏殿 2-3-2 大仏殿代虹梁図 2-3-3 資料集	華嚴宗大本山 東大寺
2-4 森林の荒廃	一丈野国有林（滋賀森林管理署） 立石国有林（滋賀森林管理署） 兵庫三草山・はげ山（兵庫森林管理署） 兵庫県六甲山・荒廃状況（兵庫森林管理署） 京都府貴船山国有林外・平成30年台風21号風倒木被害の状況（京都大阪森林管理事務所）
3 森林の保全 3-1 水源林の村	奈良県川上村役場
〃	森と水の源流館／公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
〃 (吉野杉大解剖)	吉野木材協同組合連合会
3-2 国有林での間伐	広島北部森林管理署
3-3 昔の林業	三重森林管理署
4 木工クラフト 4-1 木工クラフト画材	箕面森林ふれあい推進センター
4-1-1 クラフト	箕面森林ふれあい推進センター
4-1-2 タペストリー	箕面森林ふれあい推進センター
4-2 落ち葉のパウチ	京都森林インストラクター会
4-3 サクラヤンマの作り方	箕面森林ふれあい推進センター
4-4 水源の森ジオラマ作り	箕面森林ふれあい推進センター
4-4-1 材料・作成用具	箕面森林ふれあい推進センター
4-5 野生動物の足あとを作ろう	箕面森林ふれあい推進センター

II 写真集

1 日本の森林と自然

1-1 美しい森林を実感

1-1-1 大山（提供：鳥取森林管理署）



関金大山画像



関金大山画像 2



関金大山画像 3



大山



山開き 1



山開き 2



山開き 3



山開き 4



登山道 1



登山道 2



登山道 3



登山道 4



登山道 5



登山道 6



登山道 7



登山道 8



大山滝 1



大山滝 2



東壁



東大山 1



東大山 2



鍵掛け



南壁 1



南壁 2



南壁 3



南壁 4



南壁 5



南壁 6



南壁 7



南壁 8



南壁 9



南壁 10



元谷



大山北壁 1



大山北壁 2



北壁 1



北壁 2



北壁 3



北壁PR



柵水 1



柵水 2



柵水 3



柵水 4

1-1-2 白山 (提供：白山自然保護センター)



白山展望



白山に連なる別山



御前峰と剣ヶ峰



大汝峰



山頂部の池と雪渓



山頂部から室堂、別山



月室堂から山頂



高山植物



コバイケイソウ



ニッコウキスゲ1



ニッコウキスゲ2



クロユリ



ハクサンフワロ



ハクサンコザクラ



オオバミゾボオズキ



センジュガンビ



ハクサンシャクナゲ



ハクサンボウフウ



ミヤマキンボウゲ



ブナ林雪解け



ブナ林夏



ブナ林紅葉



ブナ林秋



ブナ林冬



ニホンカモシカ



自然保護センター
観察舎前カモシカ1



自然保護センター
観察舎前カモシカ2



ツキノワグマ



自然保護センター
イヌワシつがい



ニホンザル



まるまるサル



自然保護センター
観察舎前サル



姥が滝



溪流



地獄谷
大汝国有林



地獄谷
大汝国有林2



白山釈迦ヶ岳
釈迦ヶ岳国有林



百四丈の滝
大汝国有林1



百四丈の滝
大汝国有林2



百四丈の滝
大汝国有林3

1-1-3 大杉谷 (提供：三重森林管理署)



579いひノキ



579いひノキ
樹冠



2020.7.21 土倉
古道の現在 1



2020.7.21 土倉
古道の現在 2



H30.5.11 大台ヶ原パツ
チディフェンス



H30.5.11
日出ヶ岳展望台から



H30.10.15
大杉谷の雲海



H30.10.18
大杉谷 1



H30.10.18
大杉谷 2



H30.10.18
大杉谷 3



H30.10.18
大杉谷 4



H30.10.18
大杉谷 5



H30.11.21
千尋1本スギと
晩秋の紅葉



H30.11.21
大杉谷 森林鉄道
晩秋



H31.4.11 シシ測



H31.4.11 ニコニコ谷



H31.4.12 光滝



H31.4.12
七ツ釜滝 一釜



H31.4.12
七ツ釜滝



H31.4.12
大杉谷溪谷



H31.4.12 堂倉滝



H31.4.12 堂倉滝橋と
堂倉滝



R1.6.5
大台ヶ原の森



R1.6.21 整然と並ぶ
杉並木 大杉谷国有林



R2.3.16
雪積もる大杉谷



R2.4.9 シシ淵



R2.4.9 千尋滝



R2.4.9 堂倉滝



R2.4.9 平等窟



R2.4.9 平等窟吊り橋



R2.5.14 大台ヶ原
正木ヶ原方向



R2.5.14 大台ヶ原
川上辻方向



R2.5.14 富士見辻から
大杉谷方向撮影



R2.5.27 大杉谷 5 8 3
い 2 附近から日浦杉架
線状跡方向



R2.6.15 集材作業中



R2.8.19 大杉谷
広葉樹のうろ



R2.10.2 大台ヶ原
正木嶺附近から日出ヶ岳
展望台を望む



R2.12.18
大杉谷の雪化粧



アセビの花



オオカメノキ
冬芽 裸芽



クマ剥ぎ 1



クマ剥ぎ 2



クマ剥ぎ 3



コミネカエデ



ゴヨウツツジ 紅葉



サワグルミの枝で
休憩中のトンボ



じっとこっちを
見ているヤマドリ



シャクナゲの花



ハイ積写真



ヒキガエル



ブナの根っこに
守られて



ブナの稚樹



ミスジチョウ



ミツバツツジ類



ミツマタ 1



ミツマタ 2



ミヤマカワトンボ



ヤマザクラ
葉と花はほぼ同時に
出てくる



ヤマザクラ



ヤマドリ



ルリセンチコガネ



一面の雪化粧



雨の日のトンボ



住吉川 カウ



架線による
木材搬出



森の中の
小さな森 1



森の中の
小さな森 2



千尋架線場跡
架線方向跡



千尋架線場跡



千尋苗畑跡の石垣



霜柱と氷柱



造材作業



足跡をたどって



大杉谷 アナグマ



大杉谷 オオルリ雄



大杉谷 カケス



大杉谷 カモシカ



大杉谷
キセキレイ雄



大杉谷
キビタキ雄



大杉谷
シャクナゲの花



大杉谷 タラノキ



大杉谷 チドリノキ



大杉谷
トリカブトとハチ



大杉谷 ヒガラ



大杉谷 ミズメ



大杉谷 ヤマガラ



大杉谷 ゴヨウマツ



大杉谷
森林鉄道敷跡



大杉谷 林道に寄り込
むシカの幼体



大杉谷の地池谷



大杉谷森林鉄道
現在 1



大杉谷森林鉄道
現在 2



大杉谷森林鉄道
現在 3



大台ヶ原
紅葉時 1



大台ヶ原
紅葉時 2



大台ヶ原
紅葉時 登山道より



大台ヶ原



大台ヶ原の木道より



動物の寝床



堂倉谷 1



堂倉谷 2



蜜を集め中



霧のかかった
大杉谷



霧の大杉谷と
ゴヨウツツジ

1-1-4 美しい森 お薦め国有林 (近畿中国森林管理局管内20か所)
(提供：近畿中国森林管理局 各署等)



蛇谷風景林 1



蛇谷風景林 2



加賀海岸
自然休養林 1



加賀海岸
自然休養林 2



安宅林風景林 1



安宅林風景林 2



松原風景林 1



松原風景林 2



近江湖南アルプス 1



近江湖南アルプス 2



嵐山風景林 1



嵐山風景林 2



東山風景林 1



東山風景林 2



大和三山 [耳成山]



大和三山風景林
[畝傍山]



高取山風景林 1



高取山風景林 2



明治の森箕面
自然休養林 1



明治の森箕面
自然休養林 2



七里御浜
風致探勝林 1



七里御浜
風致探勝林 2



高野山風景林 1



高野山風景林 2



赤西
自然観察教育林 1



赤西
自然観察教育林 2



宝塚自然休養林 1



宝塚自然休養林 2



滝谷大成山
野外スポーツ地域 1



滝谷大成山
野外スポーツ地域 2



宮島風景林



恐羅漢細見峡
自然教育林 1



恐羅漢細見峡
自然教育林 2



操山自然休養林 1



操山自然休養林 2



扇ノ仙
森林スポーツ林 1



扇ノ仙
森林スポーツ林 2



岩国自然休養林 1



岩国自然休養林 2

「日本美しい森 お薦め国有林 一覧(20箇所)」近畿中国森林管理局管内

名称	所在地	名称	所在地
安宅林風景林	石川県小松市	赤西自然観察教育林	兵庫県中央市
加賀海岸自然休養林	石川県加賀市	滝谷・大成山野外スポーツ地域	兵庫県たつの市
蛇谷風景林	石川県白山市	高取山風景林	奈良県高取町
松原風景林	福井県敦賀市	大和三山風景林	奈良県橿原市
七里御浜風致探勝林	三重県紀宝町、御浜町、熊野町	高野山風景林	和歌山県高野町
近江湖南アルプス自然休養林	滋賀県大津市、栗東市	操山自然休養林	岡山県岡山市
嵐山風景林	京都府京都市	扇ノ仙森林スポーツ林	鳥取県八雲町
嵐山風景林	京都府京都市	恐羅漢細見峡自然休養林	広島県安芸太田町、廿日市市
明治の森箕面自然休養林	大阪府箕面市	宮島風景林	広島県廿日市市
宝塚自然休養林	兵庫県宝塚市	岩国自然休養林	山口県岩国市

「日本美しい森 お薦め国有林」近畿中国森林管理局管内(20箇所)



1-1-5 巨樹巨木百選（近畿中国森林管理局管内10か所）
 （提供：近畿中国森林管理局 各署等）

石川森林管理署



コモチカツラ

福井森林管理署



岩谷のトチノキ



桃木峠の大杉

三重森林管理署



一本杉



大又のカツラ

京都大阪森林管理事務所



大悲山の三本杉



上津灰のミズメ

奈良森林管理事務所
 提供：新宮山彦ぐるーぷ



持経千年松

和歌山森林管理署



弘法杉

山口森林管理事務所



三本杉

巨樹・巨木（森の巨人たち百選） 近畿中国森林管理局管内

樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)	愛称・呼称	森林管理署等	所在地
カツラ	1,580	43	コモチカツラ	石川森林管理署	石川県白山市
トチノキ	1,000	35	岩谷のトチノキ	福井森林管理署	福井県南越前町
スギ	800	40	桃木峠の大杉	福井森林管理署	福井県大野市
スギ	813	45	一本杉	三重森林管理署	三重県大台町
カツラ	1,060	32	大又のカツラ	三重森林管理署	三重県熊野市
スギ	1,360	62	大悲山の三本杉	京都大阪森林管理事務所	京都府京都市
ミズメ	416	20	上津灰のミズメ	京都大阪森林管理事務所	京都府綾部市
ヒノキ	530	25	持経千年松	奈良森林管理事務所	奈良県十津川村
スギ	630	43	弘法杉	和歌山森林管理署	和歌山県田辺市本宮町
スギ	477	42	三本杉	山口森林管理事務所	山口県山口市

※令和4年1月1日現在、健全な状態の巨樹・巨木を計上している。

1-1-6 その他

京都大阪森林管理事務所



嵐山 (春)



嵐山 (夏)



嵐山 (秋)



嵐山 (冬)



昔渡月橋 1



昔渡月橋 2



保津川木材
筏流し 1



保津川木材
筏流し 2



保津川木材
筏流し 3

滋賀森林管理事務所



滋賀署上谷山国有林
夏のブナ林

石川森林管理事務所



石川署千丈平ブナ
植物群落保護林

島根森林管理署



船通山登山道 1



船通山登山道 2



カタクリ 1



カタクリ 2



カタクリの花道



カタクリの花畑

1-2 日本の世界自然遺産

1-2-1 知床 (提供: 知床森林生態系保全センター)



樹皮剥ぎをする
エゾシカ



アオノツガザクラ



イペキトラノオ



イワブクロ



ウトロ漁港



流氷 1



流氷 2



流氷 3



流氷 4



流氷 5



流氷 6



エゾシカ 1



エゾシカ 2



エゾシカ 3



エゾシカ 4



オオウバユリ



オオワシ 1



オオワシ 2



オオワシ 3



オオワシとオジロワシ



オジロワシ



オドリコソウ



アオカナブン



カムイワッカ
湯の滝 1



カムイワッカ
湯の滝 2



カラフトマスの遡上
1



カラフトマス遡上
2



カラフトマス



キタキツネ



キタコブシ



倒木に育つ
キノコと苦



クマゲラ



コケモモ



サケ・マスの遡上



エゾシカと
流氷



シマリス 1



シマリス 2



知床連山と
シャチ



シレットコ
スマイレ 1



シレットコ
スマイレ 2



シレットコ
スマイレ 3



タカネトウ
チソウ



タマゴタケ



チシマ
キンバイソウ 1



チシマ
キンバイソウ 2



チシマモメンズル



チングルマ 1



チングルマ 2



チングルマ 3



ニホン
ザリガニ



バイカモ
茂る沢



エゾシカの子供 1